

# 60歳代以上の投資信託等に関するアンケート調査 調査結果サマリー

2021年（令和3年）3月  
一般社団法人 投資信託協会

## Point

- 投資経験者のうち、投資信託の現保有率は37.5%。認知率は95.5%。  
現保有の投資信託商品は、「毎月・隔月分配型ファンド」（53.4%）、「バランス型ファンド」（51.6%）の順で昨年同様。（5頁・6頁）
- 毎月の貯蓄の取り崩し状況では、41.2%が預貯金を取り崩していない状況。投資運用者のうち50.7%が投資運用資金を取り崩していない。（24頁・25頁）
- 資産形成をしてこなかった人が50.4%、早めに資産形成をしておけばよかったと思っている人が61.8%であることから  
資産形成への不十分さを後悔する様子がうかがえる。（26頁）
- 相続意向者のうち、現金化をしようと考えている人が23.7%。まだ決めていない人が56.9%と大半を占める。（33頁）



こちらのサマリーと報告書の全文は  
投資信託協会ホームページにて公開しております。  
[https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research3\\_2020/](https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research3_2020/)



一般社団法人  
投資信託協会

■ 調査計画の概要	P.2
1.回答者属性	P.3
2.投資信託商品の保有状況	P.5
3.全般的な投資への意識と実態	P.7
4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識	P.21
5.60歳代以上の現在の生活や今後への意識	P.30

調査の目的	日本における60歳以上（個人）の投資信託等に対する意識等を把握し、調査結果を協会会員及び各種研究機関、メディア等に広く還元すると同時に、制度改正に活用する。				
調査手法	インターネット調査（マクロミルモニタ及び提携パネルより抽出）				
調査地域	全国（首都圏、阪神圏、その他の3ブロック）				
調査対象	60歳以上の男女				
サンプル数	総計5,158サンプル				
		60-69歳	70-79歳	80歳以上	計
	男性	1,130	826	473	2,429
	首都圏	298	229	117	644
	阪神圏	166	133	73	372
	その他	666	464	283	1,413
	女性	1,189	979	561	2,729
	首都圏	308	263	175	746
	阪神圏	182	156	105	443
	その他	699	560	281	1,540
計	2,319	1,805	1,034	5,158	
<p>「その他」地域の80歳以上女性は、地域×年齢×性別の人口構成比での回収が困難なため、最大数の回収にとどめ、欠損分は他の各セルで均等に回収した。本報告書内では、全体値参照時は、「全体（構成比）」として構成比通りにランダムに抽出した2,852サンプルを使用。</p>					
調査時期	2021年1月15日（金）～1月18日（月）				
調査主体	一般社団法人 投資信託協会				
調査実施機関	株式会社 マクロミル				

「首都圏」  
埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

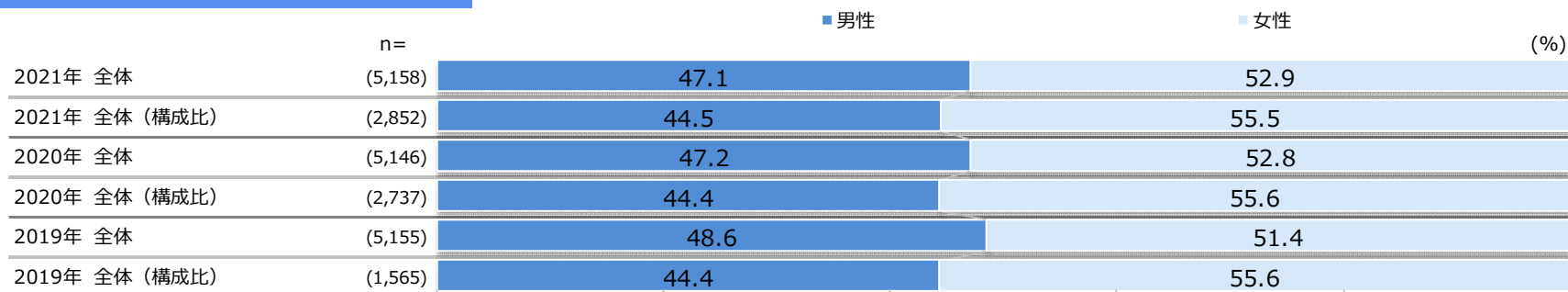
「阪神圏」  
京都府、大阪府、兵庫県、奈良県

「その他」  
上記以外の道県

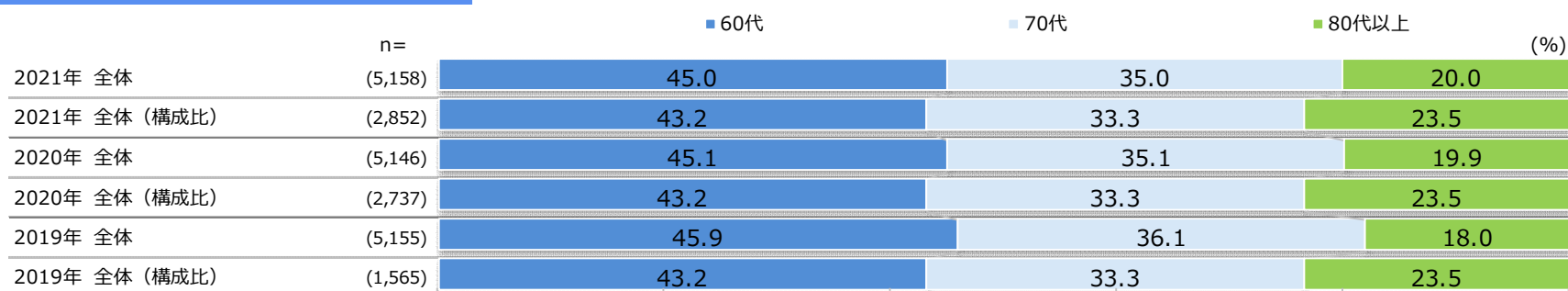
※スコアは小数点第二位で四捨五入し、小数点第一位まで掲載。

# 1. 回答者属性

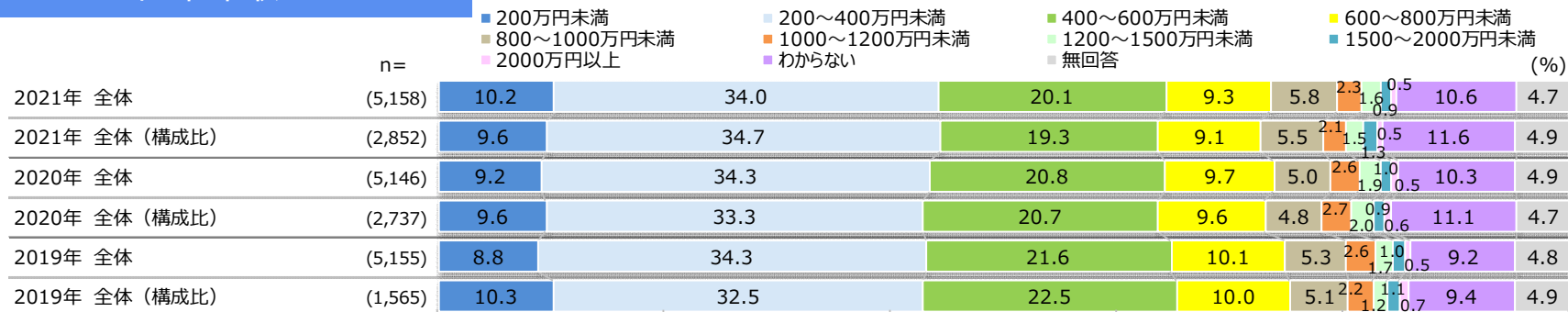
## 性別



## 年代

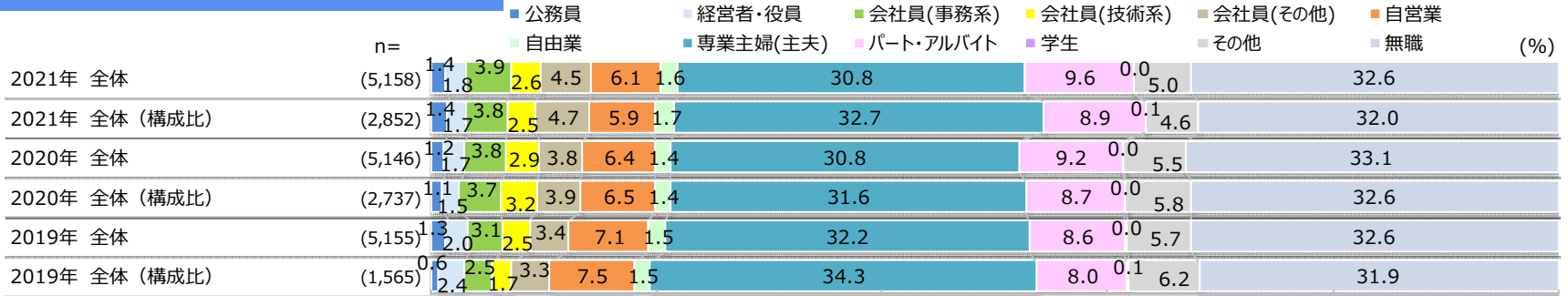


## 世帯年収



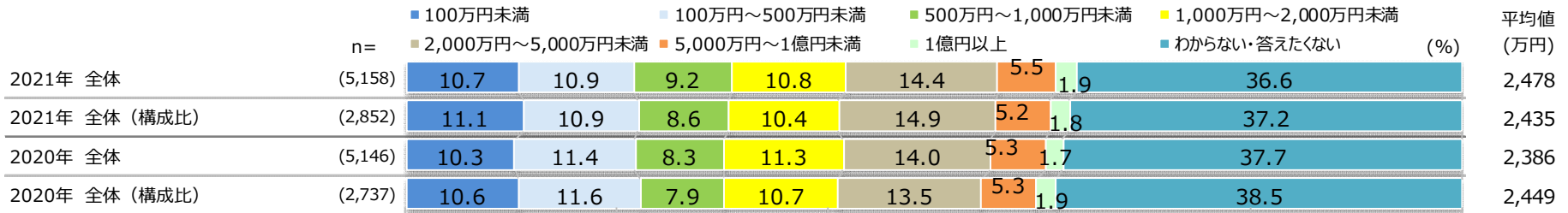
# 1. 回答者属性

## 職業



## 金融資産

(Q3)



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り。

100万円未満：50万円 / 100万円~500万円未満：300万円 / 500万円~1,000万円未満：750万円 / 1,000万円~2,000万円未満：1,500万円 / 2,000万円~5,000万円未満：3,500万円 / 5,000万円~1億円未満：7,500万円 / 1億円以上：2億円

## 家族構成

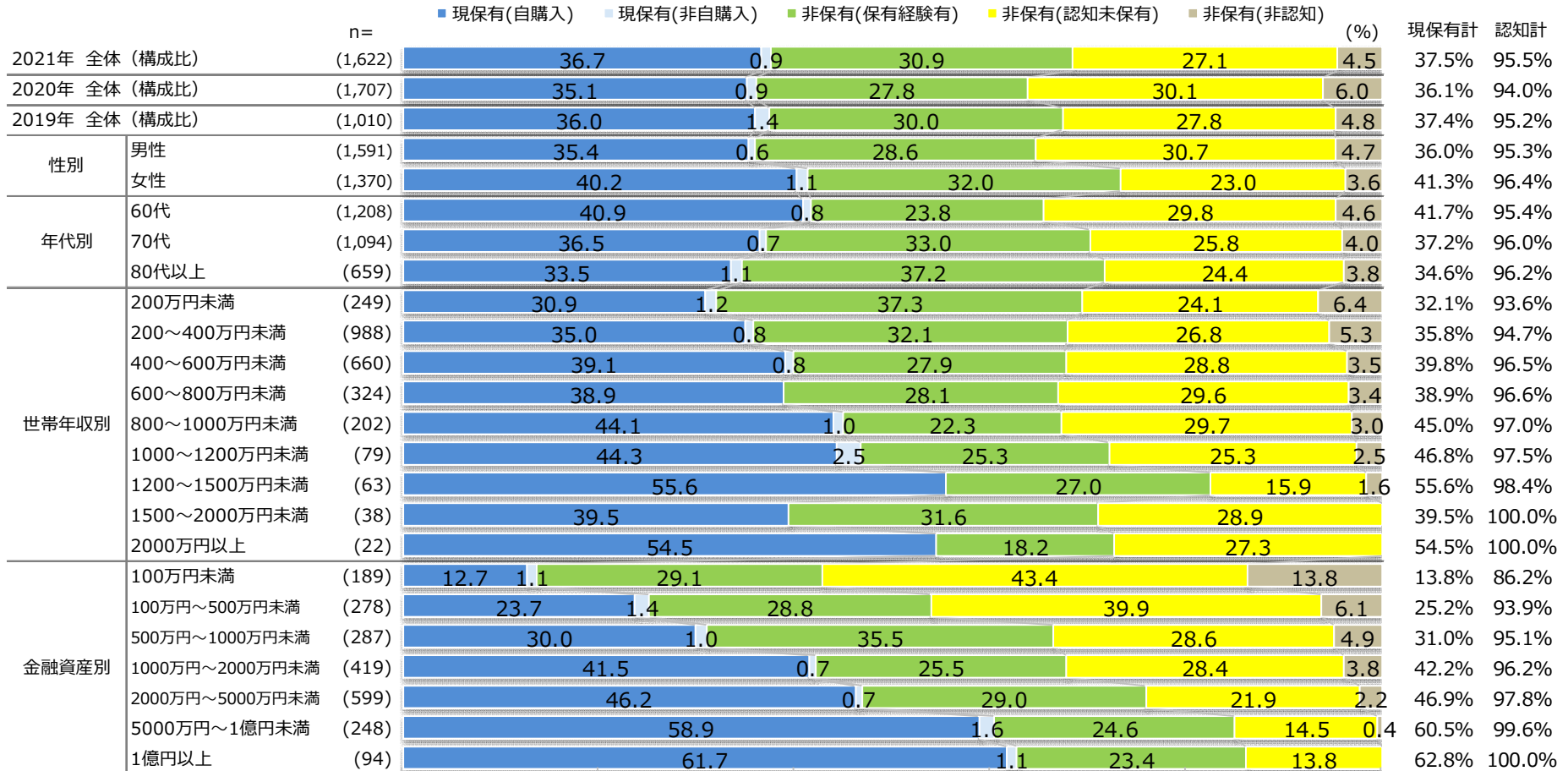
(Q1)

	n=	配偶者	親(義理の親を含む)	子	兄弟姉妹	孫	その他	いない	(%)
2021年 全体	(5,158)	73.4	17.6	60.0	30.2	29.3	2.0	6.6	
2021年 全体 (構成比)	(2,852)	72.1	17.7	60.0	29.7	29.5	1.9	7.2	
2020年 全体	(5,146)	73.8	17.5	59.0	29.4	28.4	2.1	6.2	
2020年 全体 (構成比)	(2,737)	72.3	17.1	59.0	28.8	28.2	2.3	6.5	
2019年 全体	(5,155)	75.3	17.6	61.4	29.1	30.7	2.0	6.5	
2019年 全体 (構成比)	(1,565)	71.5	17.2	60.3	28.4	30.4	1.8	7.8	

## 2. 投資信託商品の保有状況（1）

### 投資信託の保有・認知状況

（Q10） ※投資経験者ベース



※ n=30未満は参考値として掲載

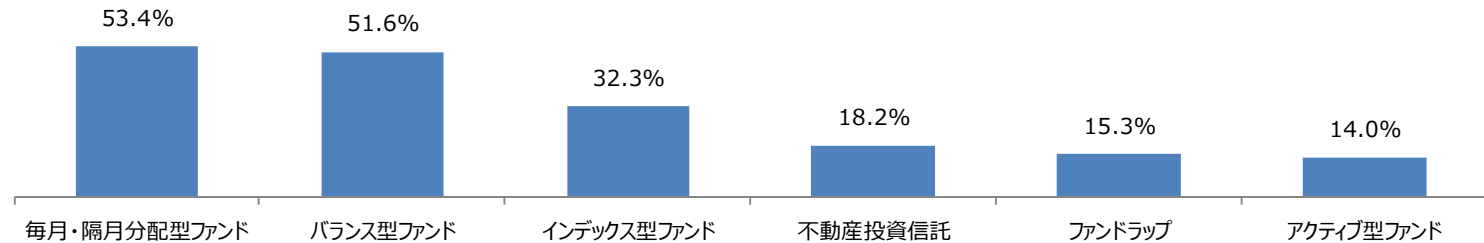
※現保有計：（「現保有(自購入)」+「現保有(非自購入)」）／認知計：（「現保有(自購入)」～「非保有(認知未保有)」）のスコア

- 投資経験者のうち、投資信託の現保有率は37.5%。認知率は95.5%。
- 性別で見ると、男性よりも女性の現保有率が高い。  
年代別では、年代が下がるほど現保有率が高まる。なお、認知率に大きな差は見られない。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど現保有率、認知率も高まる。

## 2. 投資信託商品の保有状況（2）

### 投資信託の保有種類

（Q12） ※投資信託現保有者ベース（構成比）（n=609）



### 投資信託種類別の保有理由

（Q13） ※各投資信託現保有者ベース

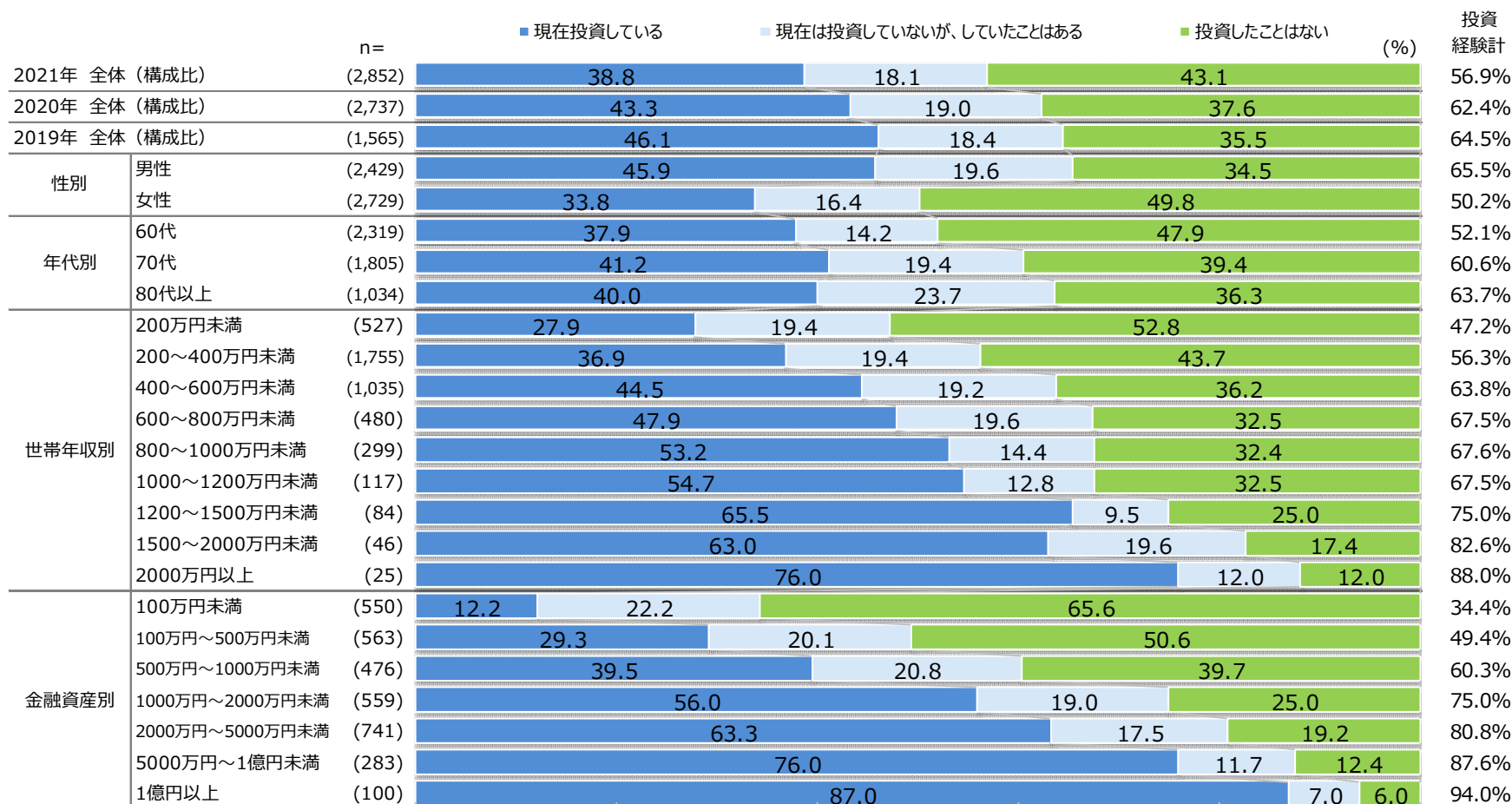
	毎月・隔月分配型ファンド 保有者ベース（n=325）		バランス型ファンド 保有者ベース（n=314）		インデックス型ファンド 保有者ベース（n=197）		不動産投資信託 保有者ベース（n=125）		ファンドラップ 保有者ベース（n=128）		アクティブ型ファンド 保有者ベース（n=85）	
1位	預貯金の金利が低いから	67.7%	預貯金の金利が低いから	66.2%	預貯金の金利が低いから	64.5%	預貯金の金利が低いから	66.4%	預貯金の金利が低いから	63.3%	預貯金の金利が低いから	67.1%
2位	資産を分けて保有しておくため	45.2%	資産を分けて保有しておくため	51.9%	資産を分けて保有しておくため	53.8%	資産を分けて保有しておくため	52.0%	資産を分けて保有しておくため	51.6%	資産を分けて保有しておくため	51.8%
3位	自分の生活費のため	28.6%	投資そのものを楽しむため	28.0%	投資そのものを楽しむため	36.0%	投資そのものを楽しむため	36.0%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため	31.3%	投資そのものを楽しむため	40.0%
4位	投資そのものを楽しむため	26.2%	自分の生活費のため	25.8%	自分の生活費のため	28.9%	自分の生活費のため	29.6%	自分の生活費のため	28.1%	自分の生活費のため	31.8%
5位	将来の医療・介護費用の負担に備えるため	19.4%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため	25.2%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため	25.4%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため	28.8%	投資そのものを楽しむため	25.8%	将来の医療・介護費用の負担に備えるため	30.6%

- 投資信託の保有種類は、「毎月・隔月分配型ファンド」（53.4％）が最も高く、「バランス型ファンド」（51.6％）が続く。
- 保有理由は、種類に関わらず「預貯金の金利が低いから」、「資産を分けて保有しておくため」が上位に挙がる。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (1)

#### 投資経験

(Q4)



※n=30未満は参考値として掲載

※投資経験計: (「現在投資している」+「現在は投資していないが、していたことはある」) のスコア

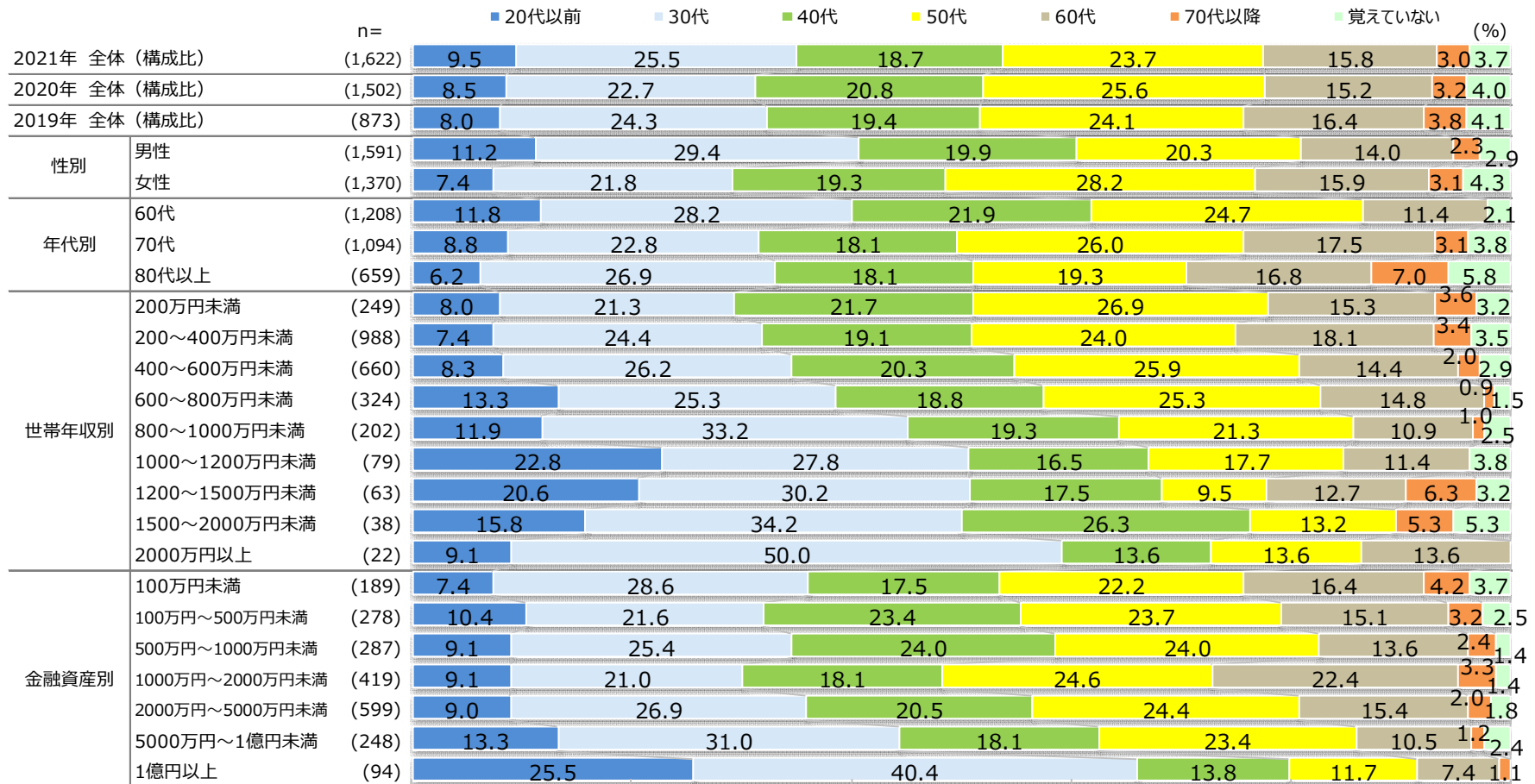
- 投資経験について、現投資率は38.8%。投資経験率は56.9%。どちらも2019年調査から減少傾向。
- 性別で見ると、現投資率は女性よりも男性で高く、45.9%。
- 年代別で見ると、現投資率に大きな差は見られないが、投資経験率は60代よりも70代以上で高く、60%を超える。
- 世帯年収別では、年収が上がるほど現投資率が高くなり、世帯年収800万円以上の層では現投資率が50%を超える。



### 3. 全般的な投資への意識と実態 (2)

#### 初めて投資をした年齢

(Q5) ※投資経験者ベース



※n=30未満は参考値として掲載

- 投資経験者の初めて投資した年齢は、「30代」(25.5%)、「50代」(23.7%)、「40代」(18.7%)、「60代」(15.8%)の順に高い。
- 性別で見ると、男性では「30代」(29.4%)が、女性では「50代」(28.2%)が最も高く、投資開始時期は男性で早い。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど「20代以前」、「30代」からの投資割合が増加傾向。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (3)

#### 初めて投資をしたきっかけ

(Q6) ※投資経験者ベース

		n=	自分から自然と興味を持った	家族や友人、知人に勧められた	金融機関から勧められた	定期預金や保険が満期になりお金が戻ってきた	テレビや雑誌、インターネット等の情報に影響を受けた	贈与や相続を受けた	退職金をもらった	ライフステージが変化した	企業型確定拠出年金に加入した	その他
2021年 全体 (構成比)		(1,622)	38.7	23.7	19.7	13.1	11.1	8.3	7.6	6.0	3.1	3.1
2020年 全体 (構成比)		(1,502)	37.0	25.1	22.4	12.6	11.7	8.3	9.5	6.4	2.7	3.0
2019年 全体 (構成比)		(873)	36.9	21.4	21.6	14.7	10.7	8.8	9.9	4.7	-	3.1
性別	男性	(1,591)	47.8	17.3	14.3	9.9	14.7	6.0	11.0	7.5	4.2	3.5
	女性	(1,370)	28.3	29.9	27.4	16.3	8.4	10.1	4.7	4.1	1.2	3.0
年代別	60代	(1,208)	37.7	21.1	18.7	13.0	13.7	9.2	6.0	7.0	3.6	3.6
	70代	(1,094)	38.0	24.8	21.4	11.3	10.6	7.4	8.1	5.2	2.7	3.2
	80代以上	(659)	42.0	24.1	21.7	15.0	10.3	6.4	11.7	5.0	1.8	2.6
世帯年収別	200万円未満	(249)	41.0	24.1	21.7	13.3	10.4	9.6	4.0	3.6	1.2	2.8
	200~400万円未満	(988)	38.8	20.3	20.1	15.0	11.2	7.5	9.0	4.9	2.4	3.2
	400~600万円未満	(660)	40.2	23.0	20.6	10.6	12.7	7.0	10.5	8.6	3.5	2.9
	600~800万円未満	(324)	35.8	25.3	18.5	12.3	14.8	8.0	8.0	6.5	2.8	3.4
	800~1000万円未満	(202)	37.1	25.2	16.8	14.9	7.9	11.4	5.9	4.5	4.5	4.0
	1000~1200万円未満	(79)	36.7	24.1	22.8	13.9	19.0	10.1	5.1	8.9	2.5	1.3
	1200~1500万円未満	(63)	42.9	28.6	22.2	6.3	12.7	6.3	12.7	6.3	4.8	4.8
	1500~2000万円未満	(38)	39.5	36.8	23.7	10.5	5.3	5.3	-	13.2	-	5.3
	2000万円以上	(22)	27.3	31.8	22.7	-	18.2	-	4.5	4.5	9.1	9.1
金融資産別	100万円未満	(189)	42.3	15.3	12.7	8.5	15.3	7.9	3.7	4.8	4.2	3.7
	100万円~500万円未満	(278)	41.7	23.0	16.2	11.2	13.3	6.5	7.2	4.3	3.2	3.2
	500万円~1000万円未満	(287)	36.9	23.3	15.3	14.3	11.5	8.4	10.5	4.5	4.2	3.8
	1000万円~2000万円未満	(419)	35.3	21.0	26.5	12.9	13.4	8.4	11.7	8.4	2.6	1.7
	2000万円~5000万円未満	(599)	35.6	22.5	23.4	16.4	13.7	9.0	12.2	7.2	3.0	3.5
	5000万円~1億円未満	(248)	41.5	25.4	23.4	14.1	10.5	11.7	4.4	7.7	2.4	2.4
	1億円以上	(94)	45.7	35.1	17.0	9.6	16.0	12.8	4.3	7.4	3.2	5.3

※「2021年 全体 (構成比)」スコアを降順ソート

※n=30未満は参考値として掲載

- 初めて投資をしたきっかけは、「自分から自然と興味を持った」(38.7%)が最も高い。「家族や友人、知人に勧められた」(23.7%)、「金融機関から勧められた」(19.7%)が続く。
- 性別で見ると、男性では「自分から自然と興味を持った」(47.8%)が最も高く、圧倒的。2位の「家族や友人、知人に勧められた」を30.5ポイント上回る。一方、女性では「家族や友人、知人に勧められた」(29.9%)が最も高く、僅差で「自分から自然と興味を持った」、「金融機関から勧められた」が続く。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (4)

#### 投資理由

(Q7) ※投資経験者ベース

		n=	預貯金の 金利が 低いから	投資そのものを 楽しむため	資産を分けて 保有しておくため	将来の医療・ 介護費用の 負担に備える ため	自分の 生活費のため	経済について 学ぶため	趣味やレジャー などの遊興費に 充てるため	社会とのつながり を持つため	相続や贈与の 資金のため	その他	特に理由はない
2021年 全体 (構成比)		(1,622)	50.1	31.4	27.6	19.9	19.9	15.6	12.7	7.5	6.0	1.4	10.1
2020年 全体 (構成比)		(1,502)	49.1	31.3	26.9	20.9	21.0	14.6	15.4	6.9	5.2	1.5	8.5
2019年 全体 (構成比)		(873)	45.4	30.8	25.7	17.2	16.4	15.2	11.9	6.0	4.8	2.1	12.3
性別	男性	(1,591)	48.1	36.3	27.8	20.2	22.1	17.3	14.6	7.5	4.7	1.8	9.5
	女性	(1,370)	50.4	27.7	25.8	19.3	17.2	13.6	11.7	7.4	6.1	1.6	11.1
年代別	60代	(1,208)	51.5	28.7	28.1	17.6	20.1	14.5	11.6	6.0	5.6	2.0	10.1
	70代	(1,094)	48.8	33.5	26.6	19.1	19.2	14.8	13.6	7.6	4.3	1.3	10.2
	80代以上	(659)	45.4	37.2	25.0	25.0	20.5	19.0	15.8	9.7	6.5	1.8	10.5
世帯年収別	200万円未満	(249)	47.0	29.7	20.9	15.7	28.5	15.7	10.0	6.4	3.2	0.8	11.2
	200~400万円未満	(988)	48.6	32.3	25.0	19.8	20.9	14.3	13.5	6.3	5.1	2.5	9.3
	400~600万円未満	(660)	51.7	33.9	27.7	22.1	18.6	17.1	13.8	7.6	3.6	0.9	9.4
	600~800万円未満	(324)	47.8	35.2	26.9	19.8	18.5	14.8	17.3	7.1	6.5	0.9	11.1
	800~1000万円未満	(202)	55.9	26.7	33.7	23.3	17.8	13.9	13.9	10.9	8.4	2.5	5.9
	1000~1200万円未満	(79)	43.0	45.6	34.2	22.8	13.9	19.0	16.5	8.9	10.1	-	8.9
	1200~1500万円未満	(63)	49.2	41.3	38.1	19.0	11.1	19.0	9.5	6.3	11.1	3.2	7.9
	1500~2000万円未満	(38)	55.3	34.2	50.0	15.8	21.1	39.5	10.5	10.5	13.2	2.6	10.5
	2000万円以上	(22)	31.8	27.3	31.8	36.4	27.3	9.1	4.5	9.1	9.1	9.1	9.1
金融資産別	100万円未満	(189)	32.8	34.9	11.1	12.7	30.7	12.2	14.8	3.2	2.1	0.5	10.1
	100万円~500万円未満	(278)	41.7	31.7	16.2	14.0	26.6	12.6	15.5	6.8	2.2	2.9	10.8
	500万円~1000万円未満	(287)	50.5	32.4	24.0	21.3	22.3	16.4	13.9	8.0	5.2	1.7	8.4
	1000万円~2000万円未満	(419)	52.7	31.0	25.1	24.3	23.4	13.1	13.1	6.7	5.5	0.7	7.9
	2000万円~5000万円未満	(599)	56.1	36.1	35.4	24.5	18.7	18.4	14.9	9.2	6.5	1.8	5.8
	5000万円~1億円未満	(248)	57.3	36.3	41.1	27.0	19.0	20.2	16.9	9.3	9.7	2.0	5.2
	1億円以上	(94)	53.2	41.5	51.1	26.6	21.3	31.9	11.7	14.9	14.9	2.1	4.3

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

※n=30未満は参考値として掲載

- 投資理由は、「預貯金の金利が低いから」(50.1%)が最も高い。以下、「投資そのものを楽しむため」(31.4%)、「資産を分けて保有しておくため」(27.6%)が続く。
- 性別で見ると、女性よりも男性で「投資そのものを楽しむため」が高い。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど「資産を分けて保有しておくため」が高まる。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (5)

#### 投資未経験理由

(Q8) ※投資未経験者ベース

n=		そもそも投資に興味がないから	投資の知識がないから	投資するための資金がないから	損をするのが怖いから	賭け事のように嫌だから	なんとなく機会がなかったから	周りに投資している人がいないから	資産を増やす必要性を感じないから	その他	特にない
2021年 全体 (構成比)	(1,230)	37.3	36.2	33.2	32.2	20.7	6.4	3.9	2.9	1.0	15.9
2020年 全体 (構成比)	(1,235)	37.4	34.3	34.9	33.4	21.2	5.5	4.6	3.4	0.4	14.2
2019年 全体 (構成比)	(692)	37.0	38.6	33.2	28.5	20.4	3.9	2.3	3.2	1.6	14.0
性別	男性 (838)	38.1	32.3	37.9	31.0	23.0	7.0	2.5	4.4	1.2	15.8
	女性 (1,359)	37.6	40.8	31.8	32.5	20.1	5.9	4.3	2.4	0.4	14.1
年代別	60代 (1,111)	36.5	38.1	32.4	36.4	22.7	6.1	4.3	2.5	1.0	14.8
	70代 (711)	41.1	39.9	39.1	28.0	19.4	6.5	3.0	3.7	0.6	10.8
	80代以上 (375)	35.2	31.5	29.9	26.4	20.3	6.7	2.7	4.0	0.3	21.9
世帯年収別	200万円未満 (278)	37.8	34.2	42.4	30.9	20.1	4.3	2.9	3.2	1.1	13.7
	200~400万円未満 (767)	40.3	40.3	35.5	31.4	20.6	5.9	3.7	2.5	0.5	12.8
	400~600万円未満 (375)	35.2	37.9	36.8	30.7	21.9	8.5	2.7	4.3	0.8	13.3
	600~800万円未満 (156)	35.3	42.3	30.8	39.7	24.4	7.7	5.8	5.1	0.6	16.0
	800~1000万円未満 (97)	45.4	35.1	22.7	28.9	26.8	9.3	4.1	2.1	3.1	8.2
	1000~1200万円未満 (38)	44.7	39.5	18.4	36.8	21.1	7.9	2.6	5.3	2.6	7.9
	1200~1500万円未満 (21)	38.1	28.6	14.3	28.6	33.3	14.3	-	9.5	-	19.0
	1500~2000万円未満 (8)	-	25.0	25.0	37.5	-	-	-	-	-	37.5
	2000万円以上 (3)	66.7	66.7	33.3	66.7	33.3	-	-	-	-	-
金融資産別	100万円未満 (361)	35.7	26.3	50.1	23.8	15.5	3.9	2.2	3.0	1.1	14.1
	100万円~500万円未満 (285)	35.1	40.0	50.5	33.0	24.6	9.8	3.2	2.1	0.7	7.4
	500万円~1000万円未満 (189)	31.7	51.3	29.6	47.6	31.2	4.2	2.1	3.7	-	6.3
	1000万円~2000万円未満 (140)	38.6	49.3	29.3	44.3	21.4	10.7	4.3	2.9	0.7	4.3
	2000万円~5000万円未満 (142)	38.7	49.3	16.2	50.7	29.6	7.0	4.2	3.5	1.4	7.0
	5000万円~1億円未満 (35)	51.4	57.1	5.7	28.6	31.4	5.7	2.9	20.0	-	5.7
	1億円以上 (6)	83.3	66.7	-	50.0	33.3	16.7	-	16.7	-	16.7

※n=30未満は参考値として掲載

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資未経験理由として、「そもそも投資に興味がないから」(37.3%)、「投資の知識がないから」(36.2%)、「投資するための資金がないから」(33.2%)、「損をするのが怖いから」(32.2%)が挙げられる。
- 年代別でみると、年代が低い層ほど「損をするのが怖いから」が高い。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (6)

#### 投資の経験・考え方

(Q9) ※投資経験者ベース

※スコアはあてはまる計（「とてもあてはまる」+「あてはまる」）

(%)

n=		過去に自分の投資を後悔したことがある	年齢を重ねるにつれて、ローリスク・ローリターンへの投資をするようになった	以前より自分で調べて投資することを面倒に思うようになった	過去に想像以上のハイリターンを得たことがある	年齢を重ねるにつれて、自分の判断に自信がなくなってきた	以前より運用期間を短く考えるようになった	積立投資の効果を実感したことがある	経験を重ねて、自分の判断に自信を持っている	経験を重ねて、ハイリスク・ハイリターンへの投資をするようになった
2021年 全体 (構成比)		(1,622) 61.6	46.2	41.5	35.1	31.9	29.2	24.7	15.5	11.6
2020年 全体 (構成比)		(1,502) 61.9	43.2	42.3	31.2	33.8	30.7	23.0	13.9	12.1
2019年 全体 (構成比)		(873) 63.0	45.7	46.2	32.4	30.7	32.3	21.5	15.5	12.3
性別	男性	(1,591) 63.2	41.2	36.5	36.0	25.1	26.2	24.7	17.0	12.9
	女性	(1,370) 60.4	49.2	48.5	32.2	39.1	33.1	21.8	11.8	9.1
年代別	60代	(1,208) 61.7	43.1	37.7	35.3	26.7	25.0	26.2	14.7	11.3
	70代	(1,094) 61.5	47.8	44.1	34.1	34.1	31.7	21.2	12.6	9.2
	80代以上	(659) 62.8	43.4	46.9	32.6	36.1	33.5	21.7	17.8	14.1
世帯年収別	200万円未満	(249) 67.1	39.0	47.0	30.1	39.4	32.9	19.3	10.8	12.9
	200～400万円未満	(988) 63.0	45.2	44.8	31.2	33.4	29.4	19.8	13.0	10.3
	400～600万円未満	(660) 63.8	48.9	42.9	36.5	31.7	29.7	25.3	15.5	10.2
	600～800万円未満	(324) 63.9	44.4	40.1	38.6	30.2	29.6	27.2	17.0	11.4
	800～1000万円未満	(202) 55.9	48.0	33.2	38.6	28.2	26.2	31.7	16.3	12.9
	1000～1200万円未満	(79) 51.9	38.0	29.1	50.6	20.3	39.2	32.9	34.2	20.3
	1200～1500万円未満	(63) 60.3	42.9	28.6	46.0	19.0	23.8	23.8	15.9	7.9
	1500～2000万円未満	(38) 60.5	39.5	36.8	50.0	31.6	34.2	36.8	34.2	31.6
	2000万円以上	(22) 45.5	36.4	40.9	59.1	13.6	27.3	22.7	22.7	9.1
金融資産別	100万円未満	(189) 56.1	34.9	41.3	25.9	43.4	33.9	18.0	14.8	16.9
	100万円～500万円未満	(278) 57.2	36.7	41.0	23.4	34.5	28.4	22.3	12.6	9.7
	500万円～1000万円未満	(287) 59.9	46.3	41.5	32.4	33.8	28.9	20.9	16.0	10.1
	1000万円～2000万円未満	(419) 61.8	51.1	44.2	29.6	30.8	31.3	26.3	14.6	9.3
	2000万円～5000万円未満	(599) 65.6	48.7	43.1	42.7	30.1	28.7	27.2	15.4	12.0
	5000万円～1億円未満	(248) 66.5	54.8	39.1	48.8	27.8	29.8	30.2	16.1	15.7
	1億円以上	(94) 75.5	45.7	35.1	58.5	22.3	36.2	34.0	30.9	22.3

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

※n=30未満は参考値として掲載

- 投資経験者の投資の経験・考え方については、「過去に自分の投資を後悔したことがある」(61.6%)が最も高い。以下、「年齢を重ねるにつれて、ローリスク・ローリターンへの投資をするようになった」(46.2%)、「以前より自分で調べて投資することを面倒に思うようになった」(41.5%)が続く。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど「過去に想像以上のハイリターンを得たことがある」が高まり、「年齢を重ねるにつれて、自分の判断に自信がなくなってきた」は年収が下がるほど高くなる。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (7)

#### 利用を検討してもよい金融商品 (Q11)

		n=	預貯金	株式	投資信託	保険商品	債券	外貨建て商品	不動産投資信託	その他の金融商品	金融商品は利用を検討しない
2021年 全体 (構成比)		(2,852)	46.6	32.3	19.8	8.4	8.2	8.2	5.4	1.2	35.6
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	46.5	31.8	18.2	8.5	8.2	8.6	6.0	0.8	37.1
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	46.5	30.4	17.3	11.2	8.2	7.9	4.8	0.5	35.2
性別	男性	(2,429)	45.9	42.1	24.4	7.9	9.3	9.8	7.7	1.8	31.5
	女性	(2,729)	49.3	24.6	16.5	8.1	7.5	6.6	3.6	0.6	37.8
年代別	60代	(2,319)	48.7	32.5	22.7	10.2	8.7	9.5	5.6	1.3	33.3
	70代	(1,805)	49.5	33.3	18.6	6.5	8.1	6.7	4.7	0.9	34.0
	80代以上	(1,034)	42.4	32.7	17.5	5.9	8.0	7.4	6.8	1.2	39.7
世帯年収別	200万円未満	(527)	41.9	19.9	12.3	5.9	5.1	5.3	3.2	1.7	46.7
	200~400万円未満	(1,755)	47.1	30.4	18.5	5.6	7.1	5.9	4.2	0.7	36.2
	400~600万円未満	(1,035)	50.7	38.0	22.8	9.6	9.5	10.0	7.1	1.6	29.0
	600~800万円未満	(480)	52.3	45.0	26.3	10.6	7.5	10.4	7.5	1.7	25.6
	800~1000万円未満	(299)	53.5	43.5	29.8	13.7	15.7	12.7	9.4	2.0	23.4
	1000~1200万円未満	(117)	55.6	43.6	28.2	17.9	12.8	13.7	10.3	1.7	21.4
	1200~1500万円未満	(84)	57.1	47.6	34.5	13.1	19.0	15.5	17.9	-	21.4
	1500~2000万円未満	(46)	47.8	50.0	37.0	17.4	21.7	28.3	17.4	-	28.3
	2000万円以上	(25)	80.0	68.0	32.0	16.0	20.0	4.0	4.0	-	4.0

※n=30未満は参考値として掲載

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 利用を検討してもよい金融商品は、「預貯金」(46.6%)が最も高い。次いで「株式」(32.3%)。
- 「投資信託」は第3位で19.8%となっており、2位の「株式」とは12.5ポイント差。
- 「投資信託」の利用検討意向は、女性よりも男性で高く、また世帯年収が上がるほど高まる。ただし、実際の投資信託保有状況では女性の方が男性よりも5.3ポイント高い。(5頁)

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (8)

#### 利用を検討してもよい金融商品 (Q11)

		n=	預貯金	株式	投資信託	保険商品	債券	外貨建て商品	不動産投資信託	その他の金融商品	金融商品は利用を検討しない
2021年 全体 (構成比)		(2,852)	46.6	32.3	19.8	8.4	8.2	8.2	5.4	1.2	35.6
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	46.5	31.8	18.2	8.5	8.2	8.6	6.0	0.8	37.1
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	46.5	30.4	17.3	11.2	8.2	7.9	4.8	0.5	35.2
金融資産別	100万円未満	(550)	29.5	15.3	8.2	4.2	3.5	4.5	2.2	1.8	56.7
	100万円～500万円未満	(563)	50.4	27.7	16.0	6.2	4.6	6.6	2.7	1.4	30.4
	500万円～1000万円未満	(476)	51.5	34.9	20.8	7.8	5.5	8.8	6.7	1.5	29.2
	1000万円～2000万円未満	(559)	60.5	43.3	30.4	9.1	9.1	8.4	7.2	0.9	18.2
	2000万円～5000万円未満	(741)	58.6	48.7	33.6	14.2	15.0	13.0	8.9	1.2	15.5
	5000万円～1億円未満	(283)	67.5	63.3	36.7	17.3	27.2	20.5	15.5	3.2	12.0
	1億円以上	(100)	64.0	70.0	47.0	15.0	33.0	22.0	23.0	2.0	9.0
投資経験別	投資経験者	(2,961)	55.3	53.1	32.2	10.8	13.5	13.0	9.3	1.8	18.0
	現投資者	(2,037)	58.6	68.4	41.5	11.2	16.9	15.7	12.6	2.2	8.6
	過去投資者	(924)	48.2	19.2	11.6	9.7	6.1	7.0	2.2	1.1	38.7
	投資未経験者	(2,197)	37.4	5.6	4.1	4.3	1.3	1.5	0.3	0.3	57.4

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 投資経験別で見ると、現投資者の「投資信託」利用検討意向は41.5%。  
一方で、投資未経験者では「投資信託」の利用検討意向が4.1%まで低下し、「金融商品は利用を検討しない」が57.4%を占める。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (9)

#### 金融商品・投資商品認知状況

(Q10) ※投資経験者ベース

※スコアは認知計（「自分で購入し保有している」～「（名前だけでも）知っているが、持っていたことはない」）

(%)

		n=	株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2021年 全体（構成比）		(1,622)	98.6	95.5	90.6	84.5	72.1
2020年 全体（構成比）		(1,707)	97.1	94.0	89.2	82.6	70.0
2019年 全体（構成比）		(1,010)	97.6	95.2	90.7	83.6	71.6
性別	男性	(1,591)	99.2	95.3	91.9	85.8	77.2
	女性	(1,370)	98.0	96.4	89.6	83.2	67.2
年代別	60代	(1,208)	98.7	95.4	91.0	85.3	73.4
	70代	(1,094)	98.7	96.0	90.8	85.5	70.9
	80代以上	(659)	98.5	96.2	90.7	81.9	73.7
世帯年収別	200万円未満	(249)	97.2	93.6	85.5	84.3	67.1
	200～400万円未満	(988)	98.7	94.7	90.2	80.8	69.3
	400～600万円未満	(660)	99.2	96.5	93.3	87.4	77.3
	600～800万円未満	(324)	98.5	96.6	89.8	87.0	75.3
	800～1000万円未満	(202)	100.0	97.0	95.0	87.6	76.2
	1000～1200万円未満	(79)	97.5	97.5	88.6	88.6	84.8
	1200～1500万円未満	(63)	96.8	98.4	90.5	90.5	76.2
	1500～2000万円未満	(38)	100.0	100.0	100.0	92.1	84.2
	2000万円以上	(22)	100.0	100.0	100.0	95.5	81.8

※「2021年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

※n=30未満は参考値として掲載

- 投資経験者における金融商品・投資商品認知状況をみると、「株式」（98.6％）の認知率が最も高い。以下、「投資信託」（95.5％）、「債券」（90.6％）、「外貨建て商品」（84.5％）、「不動産投資信託」（72.1％）が続く。



### 3. 全般的な投資への意識と実態（10）

#### 金融商品・投資商品認知状況

（Q10） ※投資経験者ベース

※スコアは認知計（「自分で購入し保有している」～「（名前だけでも）知っているが、持っていたことはない」）

（%）

n=		株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2021年 全体（構成比）		(1,622) 98.6	95.5	90.6	84.5	72.1
2020年 全体（構成比）		(1,707) 97.1	94.0	89.2	82.6	70.0
2019年 全体（構成比）		(1,010) 97.6	95.2	90.7	83.6	71.6
金融資産別	100万円未満	(189) 97.9	86.2	82.5	72.5	56.6
	100万円～500万円未満	(278) 97.1	93.9	87.4	80.6	70.1
	500万円～1000万円未満	(287) 98.6	95.1	90.2	86.1	68.3
	1000万円～2000万円未満	(419) 98.3	96.2	91.9	83.8	72.3
	2000万円～5000万円未満	(599) 99.8	97.8	94.8	90.2	80.6
	5000万円～1億円未満	(248) 99.2	99.6	96.8	91.5	85.1
	1億円以上	(94) 100.0	100.0	96.8	93.6	87.2
投資経験別	投資経験者	(2,961) 98.6	95.8	90.8	84.6	72.6
	現投資者	(2,037) 99.0	97.2	92.8	89.1	79.8
	過去投資者	(924) 97.9	92.6	86.5	74.7	56.6

※「2021年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

- 金融資産別でみると、「不動産投資信託」では資産が上がるほど認知率も高い。「不動産投資信託」に限らず、「株式」以外の「投資信託」・「債券」・「外貨建て商品」でも、金融資産が100万円未満では認知率が下がる。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (11)

#### 金融商品・投資商品保有経験状況

(Q10) ※投資経験者ベース

※スコアは保有経験計（「自分で購入し保有している」～「以前保有していたことはあるが、今は保有していない」）

(%)

		n=	株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2021年 全体 (構成比)		(1,622)	83.8	68.4	41.4	35.6	19.4
2020年 全体 (構成比)		(1,707)	81.3	63.9	43.9	36.7	20.2
2019年 全体 (構成比)		(1,010)	83.1	67.4	43.7	34.0	17.8
性別	男性	(1,591)	88.7	64.6	40.3	33.4	19.4
	女性	(1,370)	78.2	73.4	45.3	40.4	20.1
年代別	60代	(1,208)	79.7	65.6	38.1	37.6	19.0
	70代	(1,094)	85.6	70.2	44.8	35.1	19.0
	80代以上	(659)	88.6	71.8	47.3	37.5	22.5
世帯年収別	200万円未満	(249)	76.7	69.5	40.2	32.5	17.7
	200～400万円未満	(988)	83.6	67.9	41.5	34.5	18.4
	400～600万円未満	(660)	84.5	67.7	45.6	36.7	20.9
	600～800万円未満	(324)	85.2	67.0	37.0	39.5	20.4
	800～1000万円未満	(202)	86.1	67.3	54.0	34.7	19.8
	1000～1200万円未満	(79)	87.3	72.2	41.8	45.6	29.1
	1200～1500万円未満	(63)	87.3	82.5	42.9	54.0	27.0
	1500～2000万円未満	(38)	89.5	71.1	65.8	57.9	31.6
	2000万円以上	(22)	90.9	72.7	40.9	40.9	22.7

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

※n=30未満は参考値として掲載

- 金融商品・投資商品保有経験状況を見ると、「株式」(83.8%)の保有経験率が最も高い。以下、「投資信託」(68.4%)、「債券」(41.4%)が続く。
- 「投資信託」の保有経験率は、男性よりも女性が高い。

### 3. 全般的な投資への意識と実態（12）

#### 金融商品・投資商品保有経験状況

（Q10） ※投資経験者ベース

※スコアは保有経験計（「自分で購入し保有している」～「以前保有していたことはあるが、今は保有していない」）

（%）

n=			株式	投資信託	債券	外貨建て商品	不動産投資信託
2021年 全体（構成比）			83.8	68.4	41.4	35.6	19.4
2020年 全体（構成比）			81.3	63.9	43.9	36.7	20.2
2019年 全体（構成比）			83.1	67.4	43.7	34.0	17.8
金融資産別	100万円未満	(189)	82.0	42.9	23.3	21.7	8.5
	100万円～500万円未満	(278)	80.9	54.0	27.0	26.3	10.1
	500万円～1000万円未満	(287)	82.9	66.6	35.5	31.7	16.0
	1000万円～2000万円未満	(419)	81.6	67.8	42.7	31.5	18.4
	2000万円～5000万円未満	(599)	86.3	76.0	53.3	46.2	26.5
	5000万円～1億円未満	(248)	90.3	85.1	64.5	53.6	33.5
	1億円以上	(94)	94.7	86.2	72.3	66.0	45.7
投資経験別	投資経験者	(2,961)	83.9	68.7	42.6	36.6	19.8
	現投資者	(2,037)	88.7	75.6	47.8	44.2	25.7
	過去投資者	(924)	73.2	53.5	31.2	20.0	6.7

※「2021年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

- 投資経験別で見ると、現投資者でも「株式」（88.7%）の保有経験率が最も高く、「投資信託」（75.6%）が続く。

### 3. 全般的な投資への意識と実態 (13)

#### 金融商品・投資商品保有状況

(Q10) ※投資経験者ベース

※スコアは現保有計（「自分で購入し保有している」+「自分で購入してはいないが、贈与や相続を受けて保有している」）

(%)

		n=	株式	投資信託	外貨建て商品	債券	不動産投資信託
2021年 全体 (構成比)		(1,622)	54.2	37.5	18.2	16.3	9.6
2020年 全体 (構成比)		(1,707)	54.1	36.1	18.1	18.3	10.3
2019年 全体 (構成比)		(1,010)	56.5	37.4	15.7	18.7	8.0
性別	男性	(1,591)	59.2	36.0	16.4	14.0	9.6
	女性	(1,370)	49.8	41.3	20.3	18.2	9.2
年代別	60代	(1,208)	54.5	41.7	20.2	16.0	9.4
	70代	(1,094)	55.4	37.2	17.0	16.2	8.7
	80代以上	(659)	54.6	34.6	16.5	15.5	10.8
世帯年収別	200万円未満	(249)	43.8	32.1	13.7	10.8	9.6
	200~400万円未満	(988)	51.9	35.8	16.4	13.7	8.2
	400~600万円未満	(660)	56.2	39.8	19.1	17.6	8.9
	600~800万円未満	(324)	57.7	38.9	20.7	12.7	9.0
	800~1000万円未満	(202)	64.4	45.0	21.3	23.8	13.4
	1000~1200万円未満	(79)	63.3	46.8	25.3	21.5	12.7
	1200~1500万円未満	(63)	71.4	55.6	25.4	27.0	22.2
	1500~2000万円未満	(38)	65.8	39.5	34.2	36.8	23.7
	2000万円以上	(22)	72.7	54.5	18.2	22.7	9.1

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

※n=30未満は参考値として掲載

- 金融商品・投資商品の保有状況を見ると、「株式」(54.2%)の保有率が最も高い。以下、「投資信託」(37.5%)、「外貨建て商品」(18.2%)、「債券」(16.3%)、「不動産投資信託」(9.6%)が続く。
- 「投資信託」の保有率は、世帯年収が上がるほど高まる。また、年代別で見ると、年齢が下がるにつれて「投資信託」の保有率は高まる。

### 3. 全般的な投資への意識と実態（14）

#### 金融商品・投資商品保有状況

（Q10） ※投資経験者ベース

※スコアは現保有計（「自分で購入し保有している」+「自分で購入してはいないが、贈与や相続を受けて保有している」）

（%）

		n=	株式	投資信託	外貨建て商品	債券	不動産投資信託
2021年 全体（構成比）		(1,622)	54.2	37.5	18.2	16.3	9.6
2020年 全体（構成比）		(1,707)	54.1	36.1	18.1	18.3	10.3
2019年 全体（構成比）		(1,010)	56.5	37.4	15.7	18.7	8.0
金融資産別	100万円未満	(189)	25.9	13.8	4.8	4.8	2.6
	100万円～500万円未満	(278)	43.5	25.2	8.3	5.4	3.6
	500万円～1000万円未満	(287)	52.3	31.0	14.6	8.7	8.0
	1000万円～2000万円未満	(419)	53.0	42.2	12.6	11.7	7.6
	2000万円～5000万円未満	(599)	64.6	46.9	25.7	23.9	13.5
	5000万円～1億円未満	(248)	76.6	60.5	37.5	35.9	16.1
	1億円以上	(94)	83.0	62.8	47.9	46.8	31.9
投資経験別	投資経験者	(2,961)	54.8	38.5	18.2	15.9	9.4
	現投資者	(2,037)	79.7	55.9	26.5	23.2	13.7

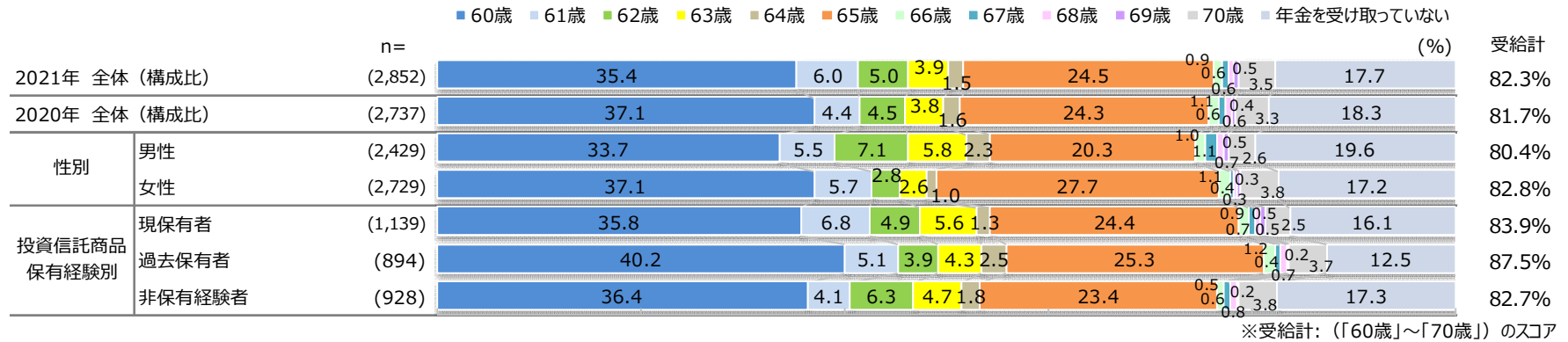
※「2021年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

- 投資経験別で見ると、現投資者は「株式」（79.7%）の保有率が最も高く、「投資信託」（55.9%）が続く。
- 金融資産別で見ると、「株式」・「投資信託」・「債券」では、資産が多くなるほど保有率が高まる。

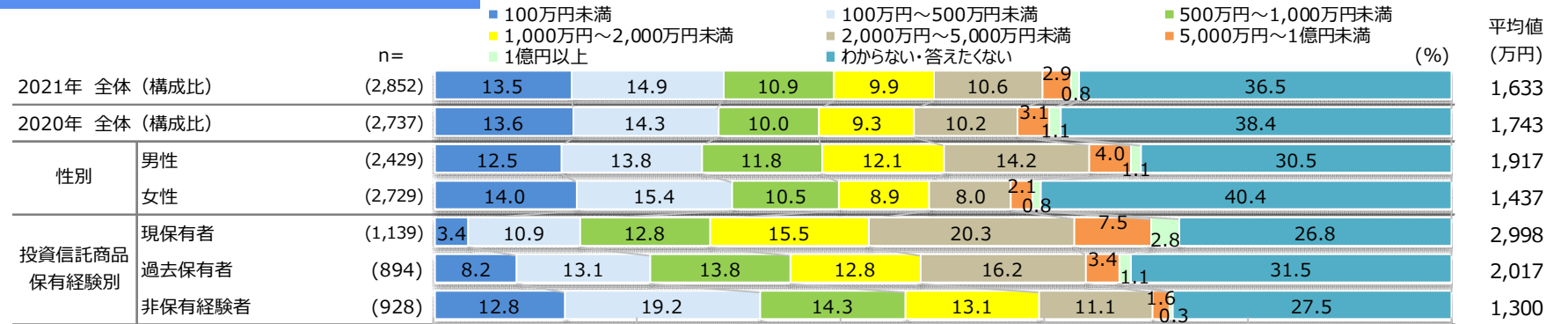
# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（1）



## 年金受給状況/受給開始年齢 (Q14)



## 年金受給前の貯蓄額 (非受給者は現在の貯蓄額) (Q15)



※ 平均値は「わからない・答えたくない」を除いて算出。算出にあたってのウエイト値は以下の通り。

100万円未満：50万円 / 100万円～500万円未満：300万円 / 500万円～1,000万円未満：1,500万円 / 1,000万円～2,000万円未満：1,500万円 / 2,000万円～5,000万円未満：3,500万円 / 5,000万円～1億円未満：7,500万円 / 1億円以上：2億円

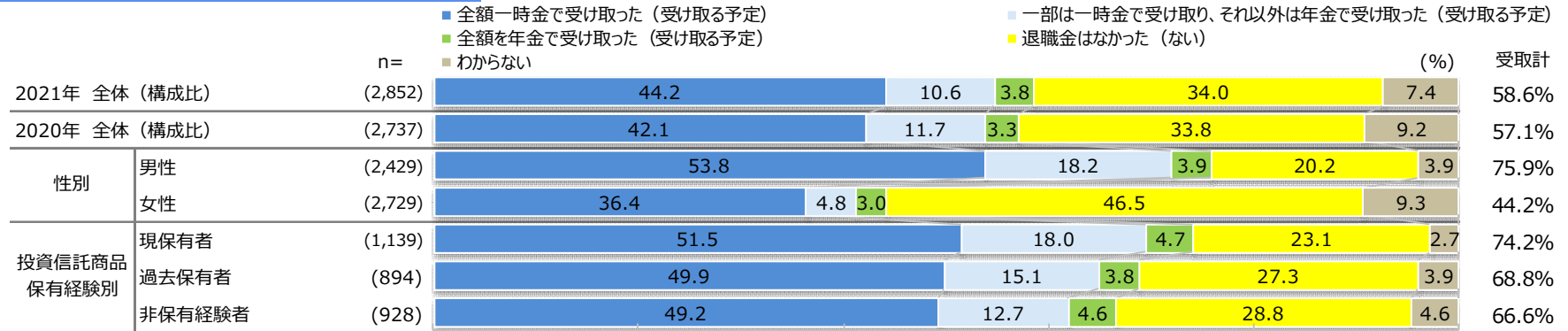
- 年金を受け取っている割合は、82.3%。受給開始年齢は、「60歳」（35.4%）が最も高く、「65歳」（24.5%）が続く。
- 年金受給前の貯蓄額（年金非受給者は現在の貯蓄額）は、「100万円～500万円未満」（14.9%）が最も高いが、100万円～5,000万円未満までの割合に大きな差は見られない。

# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（2）



## 退職金受取状況

(Q19)



※受取計: (「全額一時金で受け取った (受け取る予定)」～「全額を年金で受け取った (受け取る予定)」) のスコア

## 退職金の使い道

(Q20) ※退職金受取 (予定) 者ベース

年次	性別	投資信託商品保有経験別	n=	使い道 (%)										
				預貯金	日常生活費への充当	旅行等の趣味	住宅ローンの返済	資産運用のための金融商品の購入	住宅のリフォーム	家電など、耐久消費財の購入	子どもや孫の教育費や結婚費用等	開業・起業資金	その他	特にない
2021年 全体 (構成比)			(1,671)	62.5	26.3	22.3	22.1	21.0	19.4	11.0	9.3	2.4	3.9	8.6
2020年 全体 (構成比)			(1,562)	58.8	30.0	26.2	23.1	21.2	18.5	11.9	10.4	2.5	2.8	6.5
	男性		(1,844)	61.2	28.7	24.9	27.7	26.0	23.3	12.6	9.9	3.1	4.0	6.7
	女性		(1,206)	63.7	21.8	21.8	15.2	14.9	14.9	9.8	10.2	1.0	3.4	9.6
	現保有者		(845)	70.7	23.1	24.7	20.4	45.3	20.6	10.5	8.4	1.9	4.6	4.7
	過去保有者		(615)	67.6	22.6	28.6	23.6	25.7	21.8	10.6	11.9	2.3	3.4	5.2
	非保有経験者		(618)	60.8	28.3	25.7	27.7	17.2	22.0	11.8	12.0	3.1	3.9	7.1

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

- 退職金受け取りの割合は、58.6%。その内訳は、「全額一時金で受け取った (受け取る予定)」(44.2%)、「一部は一時金で受け取り、それ以外は年金で受け取った (受け取る予定)」(10.6%)、「全額を年金で受け取った (受け取る予定)」(3.8%)である。
- 退職金を受取者の使い道は、「預貯金」(62.5%)が最も高い。以下、「日常生活費への充当」(26.3%)、「旅行等の趣味」(22.3%)、「住宅ローンの返済」(22.1%)と続く。「資産運用のための金融商品の購入」への使用は、女性よりも男性が高い。
- 退職金の使い道において、投資信託商品保有経験別で見ると、現保有者では「資産運用のための金融商品の購入」が高い。

# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（3）



## 退職金での購入（購入予定）金融商品

（Q21） ※退職金で金融商品購入（予定）者ベース

		n=	株式	投資信託	国内債券	保険商品	外貨建て商品	その他	わからない
2021年 全体（構成比）		(351)	59.5	52.1	21.4	19.1	12.8	3.1	2.8
2020年 全体（構成比）		(331)	58.0	55.0	25.1	18.4	19.0	2.4	1.8
性別	男性	(479)	61.6	57.8	19.6	14.6	13.2	2.1	1.9
	女性	(180)	48.9	52.8	28.3	23.9	16.7	3.3	5.0
年代別	60代	(259)	49.4	60.6	18.9	22.0	14.7	4.2	2.3
	70代	(235)	60.4	54.0	25.1	17.0	13.2	0.9	3.4
	80代以上	(165)	68.5	53.3	22.4	9.7	14.5	1.8	2.4
世帯年収別	200万円未満	(26)	65.4	53.8	38.5	15.4	23.1	-	3.8
	200～400万円未満	(215)	53.0	54.9	18.1	18.1	14.4	2.8	5.6
	400～600万円未満	(178)	59.0	57.9	24.2	16.9	15.7	3.4	1.1
	600～800万円未満	(76)	69.7	56.6	18.4	13.2	3.9	1.3	-
	800～1000万円未満	(53)	58.5	54.7	22.6	17.0	15.1	3.8	-
	1000～1200万円未満	(31)	64.5	45.2	6.5	19.4	9.7	3.2	3.2
	1200～1500万円未満	(19)	42.1	78.9	63.2	26.3	26.3	-	-
	1500～2000万円未満	(10)	90.0	60.0	50.0	10.0	40.0	-	-
2000万円以上	(5)	60.0	60.0	20.0	20.0	-	-	20.0	
金融資産別	100万円未満	(14)	64.3	35.7	21.4	14.3	21.4	-	14.3
	100万円～500万円未満	(38)	57.9	42.1	18.4	5.3	10.5	-	5.3
	500万円～1000万円未満	(59)	50.8	61.0	6.8	20.3	11.9	3.4	3.4
	1000万円～2000万円未満	(99)	46.5	53.5	19.2	14.1	13.1	4.0	4.0
	2000万円～5000万円未満	(196)	60.7	57.1	23.0	20.4	15.8	1.5	1.5
	5000万円～1億円未満	(89)	60.7	65.2	36.0	22.5	15.7	5.6	-
	1億円以上	(38)	65.8	65.8	31.6	13.2	15.8	2.6	2.6

※「2021年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

※n=30未満は参考値として掲載

- 退職金で購入した（する予定の）金融商品は、「株式」（59.5%）が最も高く、「投資信託」（52.1%）が続く。
- 「投資信託」の購入について、性別で見ると、女性よりも男性で高い。また、年代が低い層ほど購入率が高い。ただし、実際の投資信託保有状況では女性の方が男性よりも5.3ポイント高い。（5頁）



# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（4）



## 毎月の貯蓄の取り崩し額（預貯金）

(Q22S1)

■【定額】5万円未満 ■【定額】5～10万円未満 ■【定額】10万円以上 ■【定率】5万円未満 ■【定率】5～10万円未満 ■【定率】10万円以上  
■【額不問】5万円未満 ■【額不問】5～10万円未満 ■【額不問】10万円以上 ■【額不問】額不明 ■ 預貯金等を取り崩していない

定額を  
取り崩す  
計  
 定率を  
取り崩す  
計  
 額は  
決めて  
いない計

		n=	2021年 全体 (構成比)							2021年 全体 (構成比)			
			【定額】5万円未満	【定額】5～10万円未満	【定額】10万円以上	【定率】5万円未満	【定率】5～10万円未満	【定率】10万円以上	【額不問】額不明	預貯金等を取り崩していない	定額を 取り崩す 計	定率を 取り崩す 計	額は 決めて いない計
2021年 全体 (構成比)		(2,852)	24.4	7.3	5.2	0.1	6.2	1.1	12.3	41.2	36.8%	1.1%	20.9%
性別	男性	(2,429)	24.5	8.3	6.5	0.2	6.3	1.2	12.6	38.0	39.4%	0.9%	21.7%
	女性	(2,729)	22.4	6.3	4.1	0.3	6.2	0.9	13.6	44.5	32.8%	1.2%	21.4%
年代別	60代	(2,319)	20.3	6.4	4.1	0.8	6.4	1.1	12.0	47.1	30.9%	1.3%	20.7%
	70代	(1,805)	23.8	7.0	4.8	0.2	6.6	1.3	14.2	40.0	35.6%	1.1%	23.3%
	80代以上	(1,034)	29.5	9.7	8.4	0.6	5.1	0.6	13.6	31.2	47.6%	0.8%	20.4%
世帯年収別	200万円未満	(527)	32.3	9.1	5.7	0.2	8.2	1.9	12.7	28.1	47.1%	1.1%	23.7%
	200～400万円未満	(1,755)	28.0	7.4	5.1	0.1	7.2	1.4	13.0	35.0	40.4%	1.6%	23.0%
	400～600万円未満	(1,035)	21.2	7.4	5.1	0.6	7.1	0.7	10.7	46.0	33.7%	0.8%	19.5%
	600～800万円未満	(480)	20.0	6.0	4.8	0.6	5.0	0.6	10.0	52.3	30.8%	0.8%	16.0%
	800～1000万円未満	(299)	17.1	6.4	8.4	0.3	5.0	0.7	6.4	54.8	31.8%	0.7%	12.7%
	1000～1200万円未満	(117)	17.1	8.5	4.3	0.9	5.1	2.6	8.5	52.1	29.9%	0.9%	17.1%
	1200～1500万円未満	(84)	21.4	6.0	2.4	1.2	7.1			59.5	29.8%	-	10.7%
	1500～2000万円未満	(46)	13.0	8.7	10.9	2.2	2.2			63.0	32.6%	-	4.3%
	2000万円以上	(25)	20.0	4.0	8.0	4.0	12.0	4.0	8.0	40.0	32.0%	4.0%	24.0%
金融資産別	100万円未満	(550)	34.7	6.5	2.2	0.7	9.3	1.1	10.2	34.2	43.5%	1.1%	21.3%
	100万円～500万円未満	(563)	35.7	7.8	3.9	0.4	8.5	0.9	8.3	33.2	47.4%	0.7%	18.7%
	500万円～1000万円未満	(476)	31.1	9.5	6.1	0.6	7.6	2.1	9.9	32.1	46.6%	1.3%	20.0%
	1000万円～2000万円未満	(559)	24.7	11.8	7.5	1.3	7.0	1.1	6.4	38.5	44.0%	1.6%	15.9%
	2000万円～5000万円未満	(741)	22.7	9.2	7.3	0.1	6.2	1.3	6.5	43.5	39.1%	1.3%	16.1%
	5000万円～1億円未満	(283)	17.3	8.1	8.5	0.4	7.1	1.1		52.7	33.9%	0.4%	13.1%
	1億円以上	(100)	9.0	9.0	10.0	6.0	7.0	4.0		55.0	28.0%	-	17.0%

※定額を取り崩す計：（「【定額】5万円未満」～「【定額】10万円以上」）のスコア ※定率を取り崩す計：（「【定率】5万円未満」～「【定率】10万円以上」）のスコア  
 ※額は決めていない計：（「【額不問】5万円未満」～「【額不問】額不明」）のスコア

※n=30未満は参考値として掲載

- 毎月の預貯金の取り崩しについて、「預貯金等を取り崩していない」（41.2%）が最も高い割合を占める。取り崩している場合、【定額】の取り崩しが36.8%で最も多く、【額不問】が20.9%が続く。なお、定率を取り崩す割合は1.1%にとどまる。
- 取り崩しの内、「【定額】5万円未満」（24.4%）が最も高い割合を占め、次いで「【額不問】額不明」（12.3%）の順。
- 世帯年収別で見ると、年収が低い層ほど預貯金を取り崩している割合が高い。（ただし、2000万円以上はサンプル数僅少のため参考値）

# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（5）

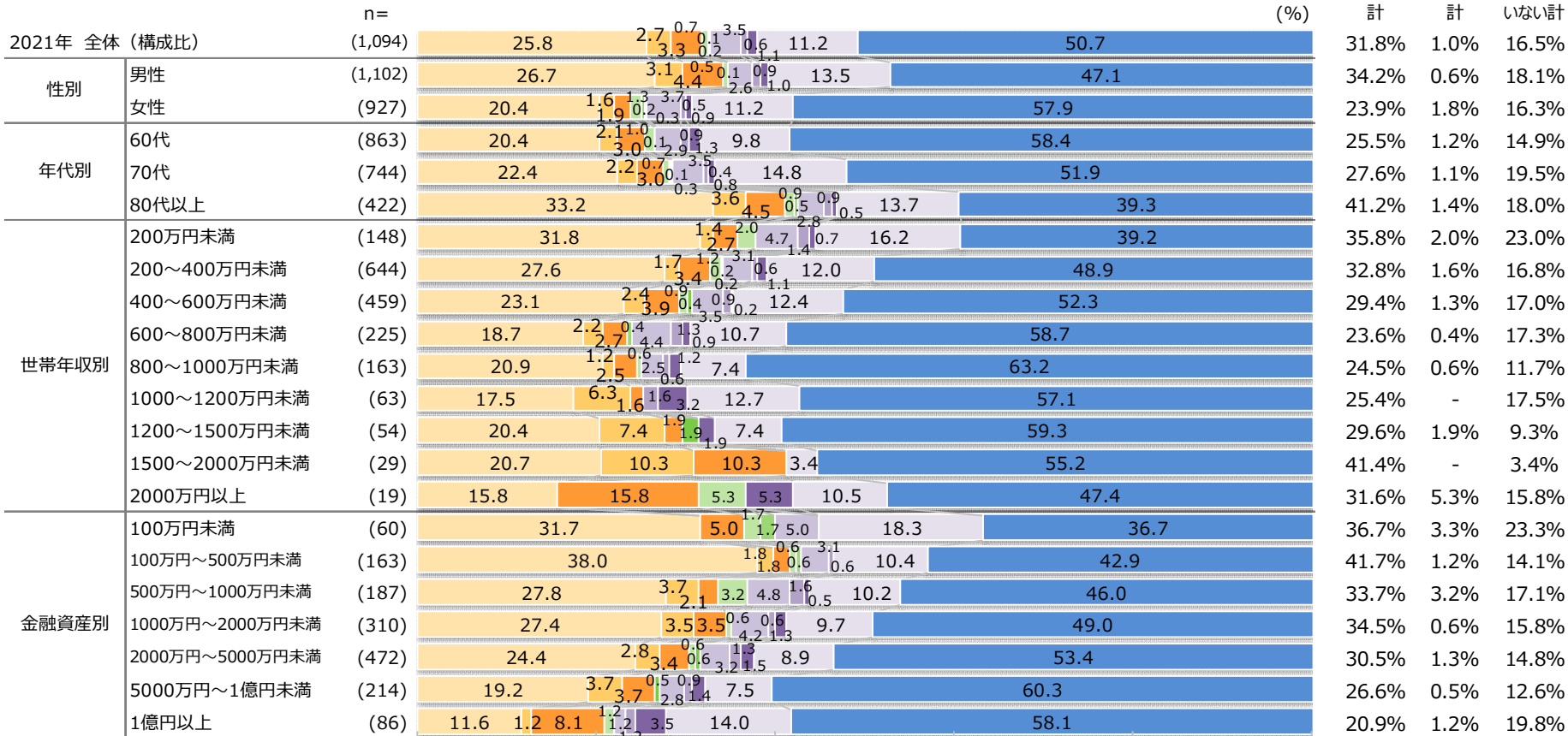


## 毎月の貯蓄の取り崩し額（投資運用資金）

(Q22S2) ※投資運用者ベース

■【定額】5万円未満 ■【定額】5～10万円未満 ■【定額】10万円以上 ■【定率】5万円未満 ■【定率】5～10万円未満 ■【定率】10万円以上  
■【額不問】5万円未満 ■【額不問】5～10万円未満 ■【額不問】10万円以上 ■【額不問】額不明 ■ 預貯金等を取り崩していない

定額を  
取り崩す  
計 (%)  
 定率を  
取り崩す  
計 (%)  
 額は  
決めて  
いない計 (%)



※定額を取り崩す計：（「【定額】5万円未満」～「【定額】10万円以上」）のスコア ※定率を取り崩す計：（「【定率】5万円未満」～「【定率】10万円以上」）のスコア  
 ※額は決めていない計：（「【額不問】5万円未満」～「【額不問】額不明」）のスコア

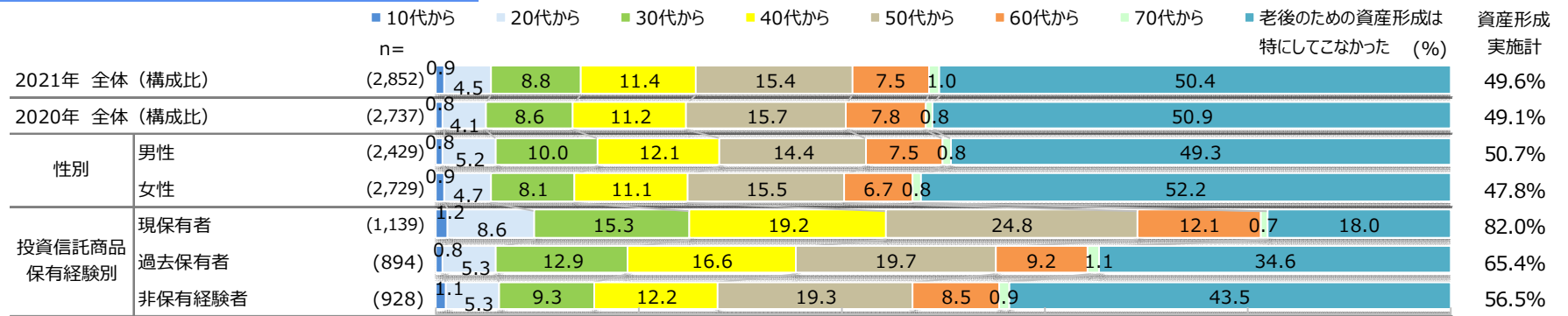
※n=30未満は参考値として掲載

- 毎月の投資運用資金の取り崩しについて、「預貯金等を取り崩していない」（50.7%）が最も高い割合を占める。取り崩している場合、【定額】の取り崩しが31.8%で最も多く、【額不問】が16.5%が続く。なお、定率を取り崩す割合は1.0%にとどまる。
- 取り崩しの内、「【定額】5万円未満」（25.8%）が最も高い割合を占め、次いで「【額不問】額不明」（11.2%）の順。
- 世帯年収別で見ると、年収が低い層ほど投資運用資金を取り崩している割合が高い。（ただし、1500万円以上はサンプル数僅少のため参考値）

# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（6）

## 老後のための資産形成を始めた年齢

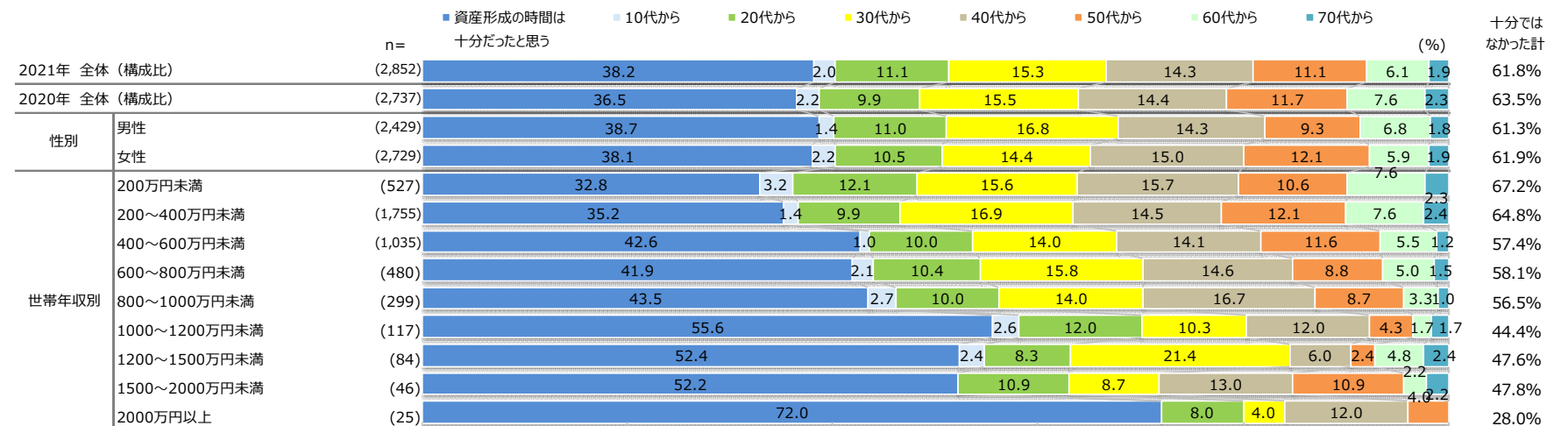
(Q17)



※資産形成実施計：（「10代から」～「70代から」）のスコア

## 老後のための資産形成の十分さ

(Q18)



※十分ではなかった計：（「10代から」～「70代から」）のスコア

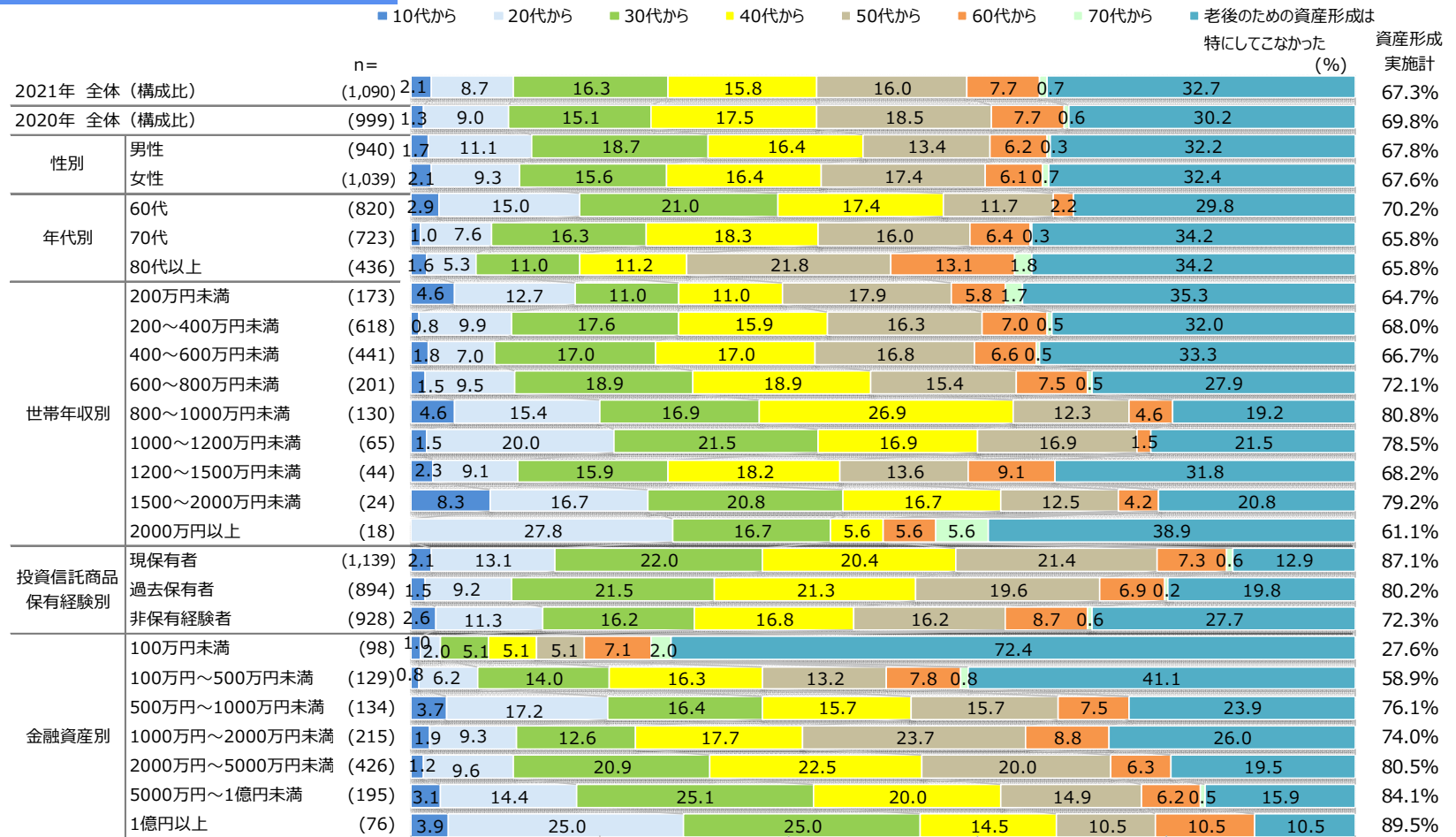
- 老後のための資産形成をしてきた割合は約半数にとどまり、「老後のための資産形成は特にしてこなかった」は50.4%。資産形成をしてきた人では、「50代から」（15.4%）が最も高く、以下「40代から」（11.4%）、「30代から」（8.8%）が続く。
- 老後のための「資産形成の時間は十分だったと思う」人は38.2%にとどまり、資産形成が十分ではなかったと感じている人が61.8%を占める。
- 世帯年収別で見ると、「資産形成の時間は十分だったと思う」は1000万円～1200万円未満をピークに、1200万円以上では下がる。（2000万円以上はサンプル数僅少のため参考値）

# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（7）



## 老後のための資産形成を始めた年齢

(Q17) ※Q18で「資産形成の時間は十分だったと思う」と回答した人ベース

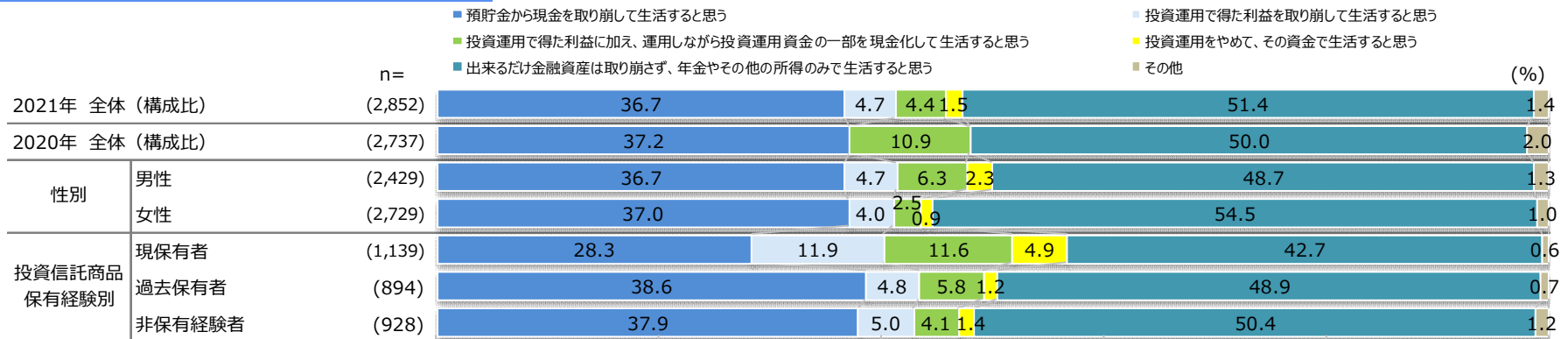


※資産形成実施計：（「10代から」～「70代から」）のスコア

- Q18で「資産形成の時間は十分だったと思う」と回答した人のうち、「老後のための資産形成は特にしてこなかった」が32.7%を占める。
- 資産形成を始めた年齢としては、30代～50代が多く、いずれも16%前後を占める。
- 投資信託商品保有経験別でみると、現保有者では「老後のための資産形成はしてこなかった」が12.9%に対し、過去保有者では19.8%、非保有経験者では27.7%。
- 金融資産別でみると、資産が少なくなるほど「老後のための資産形成はしてこなかった」が高まる。

# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（8）

## 今後の金融資産管理の意識 (Q23)



※「投資運用で得た利益に加え、運用しながら投資運用資金の一部を現金化して生活すると思う」について、2020年調査では「投資をし、運用しながら金融資産の一部を現金化し生活すると思う」で聴取  
 ※2020年調査では「投資運用で得た利益を取り崩して生活すると思う」「投資運用をやめて、その資金で生活すると思う」は非聴取

## 今後の生活の金銭面での不安 (Q24)

調査年	性別	投資信託商品保有経験別	n=	家族または自身の医療・介護費用が心配 (%)	想定外の出費が不安 (子供の結婚や出産、家屋の修繕、病気の治療など) (%)	退職金や年金だけで生活費が足りるかどうか不安 (%)	相続資金が残せるかが心配 (%)	その他 (%)	特に不安に思っていることはない (%)
2021年	全体	全体	(2,852)	49.2	34.8	30.6	6.8	0.8	25.7
2020年	全体	全体	(2,737)	49.9	37.4	32.7	6.2	0.8	22.8
2021年	男性		(2,429)	49.8	37.0	32.9	7.1	0.9	24.4
	女性		(2,729)	49.3	35.4	28.8	6.4	0.7	25.8
2021年	性別	現保有者	(1,139)	46.6	36.8	24.9	7.9	1.1	29.5
		過去保有者	(894)	49.3	34.9	25.7	7.7	0.9	27.3
		非保有経験者	(928)	51.0	38.7	31.4	8.2	1.0	24.1

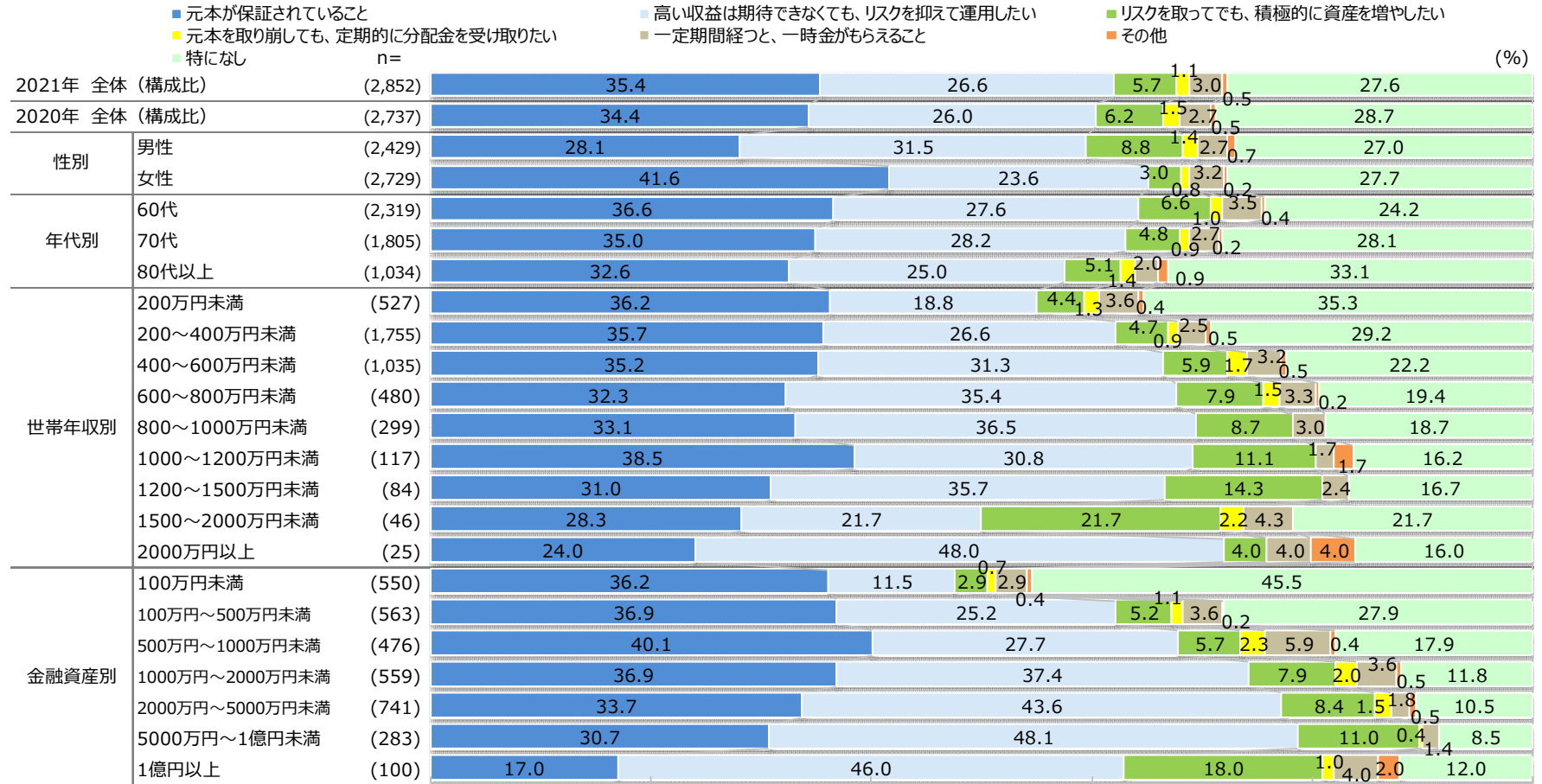
※「2021年 全体（構成比）」スコアで降順ソート

- 今後の金融資産の管理意識は、「出来るだけ金融資産は取り崩さず、年金やその他の所得のみで生活すると思う」（51.4%）が最も高い。次いで「預貯金等から現金を取り崩して生活すると思う」（36.7%）。
- 今後の生活の金銭面での不安は、「家族または自身の医療・介護費用が心配」（49.2%）が最も高い。以下、「想定外の出費が不安」（34.8%）、「退職金や年金だけで生活費が足りるかどうか不安」（30.6%）の順。

# 4.老後の資産（年金・退職金）に関する実態と意識（9）



## 今後の金融商品購入時の意識 (Q16)



※n=30未満は参考値として掲載

- 今後の金融商品を購入する時の意識として、「元本が保証されていること」（35.4%）、「高い収益は期待できなくても、リスクを抑えて運用したい」（26.6%）の2つの割合が高い。
- 性別で見ると、女性では「元本が保証されていること」が、男性では「高い収益は期待できなくても、リスクを抑えて運用したい」が高い。
- 世帯年収別で見ると、年収が上がるほど「リスクを取ってでも、積極的に資産を増やしたい」が高まる。

# 5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (1)



## 普段の生活の楽しみ・大切にしていること (Q2)

		n=	趣味	家族との時間	健康管理	旅行	友人・知人との時間	外食	家事	仕事	子育て (孫・ひ孫を含む)	ボランティア	その他	特にな
2021年 全体 (構成比)		(2,852)	62.7	54.9	50.5	47.2	39.8	26.4	23.9	13.3	8.9	8.3	1.5	6.3
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	62.4	53.7	50.2	53.3	41.6	28.6	22.5	14.0	9.4	9.0	1.4	6.7
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	64.7	54.2	53.8	51.2	42.7	26.1	23.6	12.5	9.5	10.0	2.0	6.3
性別	男性	(2,429)	67.2	56.2	52.6	49.0	30.7	24.2	14.1	17.7	8.1	9.0	1.2	6.0
	女性	(2,729)	59.7	53.9	48.0	47.8	47.3	30.3	31.6	10.0	9.2	8.6	1.9	6.6
投資信託 商品保有 経験別	現保有者	(1,139)	69.2	57.9	58.4	59.6	45.3	32.9	23.7	15.4	9.8	13.3	1.6	3.1
	過去保有者	(894)	69.2	58.4	58.1	54.9	44.7	30.1	24.9	12.0	9.2	12.2	1.8	3.1
	非保有経験者	(928)	68.0	58.9	53.4	50.2	40.0	30.3	22.4	16.4	9.4	8.2	1.4	3.8

※「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

## 就業状況・意識

(Q25)

		n=	現在働いている	退職したが、再就職したい	元々働いていなかったが、これから働きたい	現在働いておらず、今後も働くつもりはない	就労 意向計 (%)
2021年 全体 (構成比)		(2,852)	29.6	4.1	2.4	63.9	36.1%
2020年 全体 (構成比)		(2,737)	29.2	4.9	3.2	62.7	37.3%
2019年 全体 (構成比)		(1,565)	27.3	4.5	3.3	64.8	35.2%
性別	男性	(2,429)	40.0	5.0	0.4	54.6	45.4%
	女性	(2,729)	21.7	4.1	4.4	69.7	30.3%
投資信託商品 保有経験別	現保有者	(1,139)	30.7	4.3	1.8	63.1	36.9%
	過去保有者	(894)	24.6	2.8	1.7	70.9	29.1%
	非保有経験者	(928)	32.1	5.9	2.5	59.5	40.5%

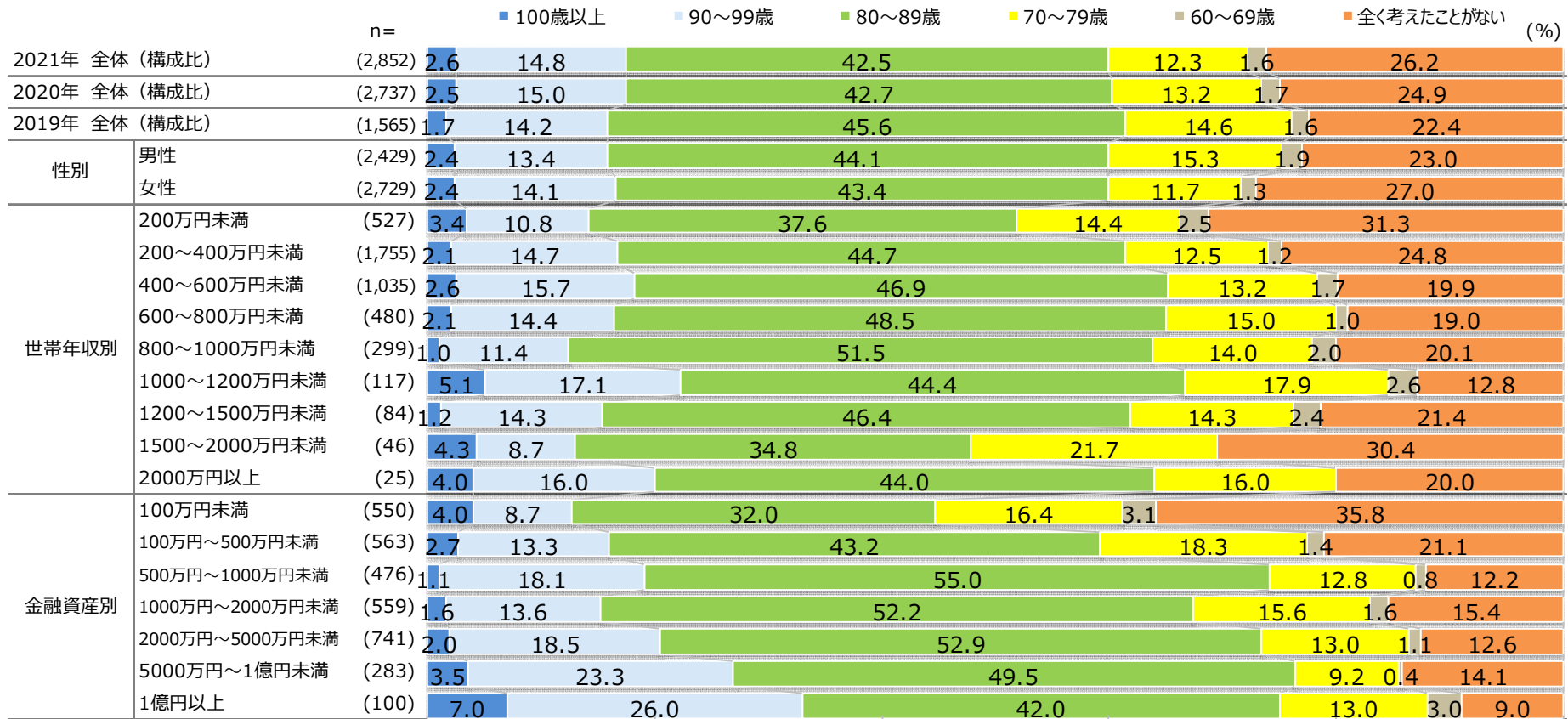
※就労意向計: (「現在働いている」～「元々働いていなかったが、これから働きたい」) のスコア

- 普段の生活の楽しみ・大切にしていることは、「趣味」(62.7%)、「家族との時間」(54.9%)、「健康管理」(50.5%)、「旅行」(47.2%)の順で高い。
- 就労状況・意識は、「現在働いている」(29.6%)、「退職したが、再就職したい」(4.1%)、「元々働いていなかったが、これから働きたい」(2.4%)、「現在働いておらず、今後も働くつもりはない」(63.9%)。就労意向は女性よりも男性が高い。

# 5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (2)

## 自身の想定寿命

(Q30)



※n=30未満は参考値として掲載

- 自身の想定寿命は、「80~89歳」(42.5%)が最も高い割合を占める。
- 性別・世帯年収別では大きな差異はみられない。
- 金融資産別でみると、資産が下がるほど「全く考えたことがない」の割合が高まる。

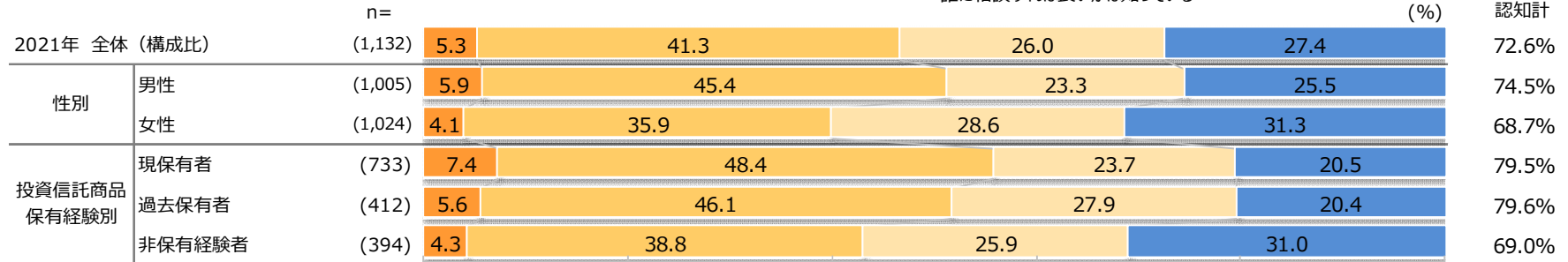


# 5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (3)

## 金融資産における相続手続きの認知

(Q28) ※預貯金以外の金融資産相続意向者ベース

■ よく知っている
 ■ ある程度は知っている
 ■ 知らないが、誰に相談すれば良いかは知っている
 ■ まったく知らない

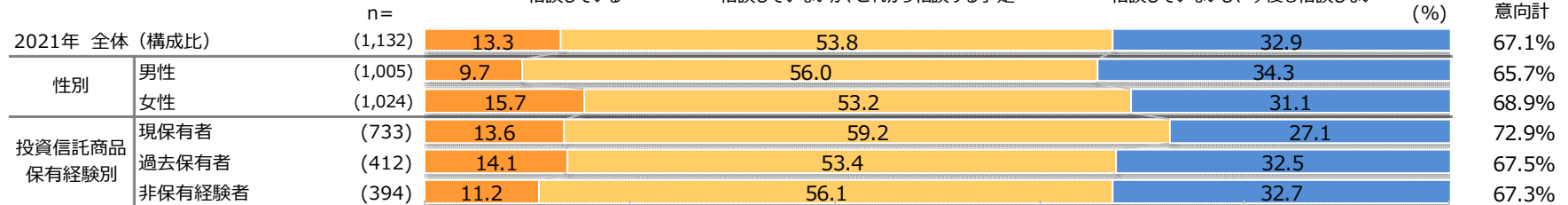


※認知計: (「よく知っている」+「ある程度は知っている」+「知らないが、誰に相談すれば良いかは知っている」) のスコア

## 金融資産における相続について

(Q29) ※預貯金以外の金融資産相続意向者ベース

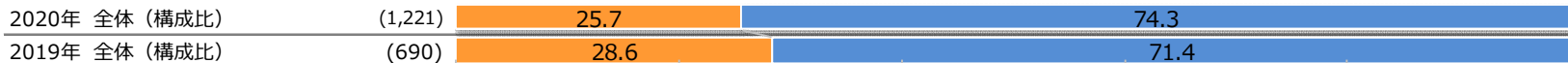
■ 相談している
 ■ 相談していないが、これから相談する予定
 ■ 相談していないし、今後も相談しない



※相談意向計: (「相談している」+「相談していないが、これから相談する予定」) のスコア

### <参考>

■ 相談している
 ■ 相談していないが、これから相談する予定



- 金融資産における相続手続きなどを「よく知っている」のは5.3%、「ある程度は知っている」が41.3%、「知らないが、誰に相談すれば良いかは知っている」は26.0%となっており、認知計は72.6%。  
なお、「まったく知らない」は27.4%で3割弱を占める。
- 相続について相続相手と「相談している」割合は13.3%。「相談していないが、これから相談する予定」が53.8%、「相談していないし、今後も相談しない」が32.9%。性別で見ると、女性では「相談している」が15.7%となっており、男性の9.7%と比べて高い。

# 5. 60歳代以上の現在の生活や今後への意識 (4)

## 引き継いでもらいたい資産

(Q26) ※財産相続意向者ベース

n=		実物資産					金融資産							特にない	
		家屋	土地	金等の貴金属や宝石	美術品・骨董品	その他の実物資産	現金・預貯金	生命保険の保険金	株式	投資信託	債券	その他の保険金	その他の金融資産		
2021年 全体 (構成比)		(2,122)	69.6	68.6	11.5	4.5	1.3	78.9	39.2	22.8	11.9	4.7	0.8	1.0	-
2020年 全体 (構成比)		(1,186)	75.2	73.5	15.4	6.1	0.8	84.9	37.4	29.2	18.2	8.3	0.8	0.2	-
2019年 全体 (構成比)		(666)	74.0	70.6	16.5	5.4	1.4	86.6	43.4	34.1	20.1	10.5	0.6	0.6	-
性別	男性	(1,894)	78.2	76.7	6.4	4.0	1.2	80.4	36.9	26.5	13.7	4.6	1.0	0.8	-
	女性	(1,949)	61.0	60.4	15.4	3.7	0.9	78.0	39.8	18.5	12.0	4.3	0.6	0.6	-
投資信託商品保有経験別	現保有者	(991)	70.3	68.2	16.4	6.8	1.0	85.6	44.0	47.3	49.7	12.3	0.8	0.6	-
	過去保有者	(744)	72.7	70.4	11.3	4.8	1.2	82.0	41.1	23.8	-	4.3	0.4	1.1	-
	非保有経験者	(754)	72.3	72.0	9.3	2.5	0.8	78.4	32.9	28.6	-	2.4	0.9	0.9	-

※カテゴリごとに「2021年 全体 (構成比)」スコアで降順ソート

## 相続する資産の現金化意向

(Q27) ※預貯金以外の金融資産相続意向者ベース

n=		現金化意向計 (%)				現金化意向計 (%)	
		金融商品は全て売却 (現金化) して相続してもらう予定だ	金融商品は一部を売却 (現金化) して相続してもらう予定だ	金融商品は全てをそのまま (現金化せず) に相続してもらう予定だ	どう相続してもらうかはまだ決まっていない		
2021年 全体 (構成比)		(1,132)	14.3	9.4	19.4	56.9	23.7%
2020年 全体 (構成比)		(654)	16.4	11.6	24.8	47.2	28.0%
性別	男性	(1,005)	16.0	11.0	21.1	51.8	27.1%
	女性	(1,024)	13.0	6.7	17.9	62.4	19.7%
投資信託商品保有経験別	現保有者	(733)	18.0	11.9	22.8	47.3	29.9%
	過去保有者	(412)	16.3	9.7	21.6	52.4	26.0%
	非保有経験者	(394)	15.0	8.9	20.3	55.8	23.9%

※現金化意向計: (「金融商品は全て売却 (現金化) して相続してもらう予定だ」+「金融商品は一部を売却 (現金化) して相続してもらう予定だ」) のスコア

- 相続意向者において、引き継いでもらいたい資産は「現金・預貯金」(78.9%)、「家屋」(69.6%)、「土地」(68.6%)が上位に挙がる。「投資信託」について、投資信託現保有者の49.7%が相続意向を持っている。
- 金融資産相続意向者のうち、現金化意向者は23.7%。その内訳は、「全て売却 (現金化) して相続してもらう予定だ」(14.3%)、「一部を売却 (現金化) して相続してもらう予定だ」(9.4%)。なお、現金化しない割合は19.4%、現金化について未定の割合は56.9%。2020年調査から現金化未定の割合が増加している。性別で見ると、女性よりも男性で現金化の意向が高い。